

令和2年度使用

教科用図書の採択について

小学校用教科用図書採択参考資料

令和元年5月

山梨県教科用図書選定審議会

目 次

□ 2019年度山梨県教育委員会の教科用図書採択基準について -----	1
□ 市町村教育委員会が協議して採択する場合の方法について -----	4
□ 市町村教育委員会の協議が整わない場合の方法について -----	5
□ 採択の公正確保について -----	5
□ 採択参考資料の構成について -----	6
□ 小学校教科用図書採択参考資料	
国 語 -----	7
書 写 -----	19
社 会 -----	33
地 図 -----	43
算 数 -----	51
理 科 -----	67
生 活 -----	83
音 楽 -----	103
図画工作 -----	111
家 庭 -----	119
保 健 -----	127
英 語 -----	141
道 徳 -----	159

□ 2019年度山梨県教育委員会の教科用図書採択基準について

教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」及び「同法施行令」並びに「同法施行規則」の示すことに基づくほか、次により行う。

- ・学習指導要領の趣旨に則り、山梨県教育振興基本計画を踏まえ、県教育委員会の指導、助言又は援助の下、十分な調査研究をした上で採択を行う。
- ・採択地区の市町村教育委員会（市町村の組合を含む。以下同じ）は、採択地区協議会を設け、教科に関する専門的な観点から調査研究を実施し、採択を行う。
- ・採択権者は公正確保の徹底を図るとともに、自らの権限と責任において適正な採択を行う。

1 小学校用教科用図書の採択基準について

学習指導要領の趣旨に則り、山梨県教育振興基本計画を踏まえ、児童に生きる力を育むことを目指し、「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できる内容や形式になっているか。

(1) 内容

- ①内容が学習指導要領に照らして適切なものであること。
 - ・知識及び技能を確実に習得できるよう適切な内容が取り上げられていること。
 - ・知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう適切な内容が取り上げられていること。
 - ・児童の主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう適切な配慮がなされていること。
- ②内容が児童の実態や地域の実情に応じ得るよう適切な配慮がなされていること。
 - ・心身の発達段階に適応しており、心身の健康や安全及び健全な情操の育成に必要な配慮がなされていること。
 - ・発展的な学習内容についての扱いが適切であること。
 - ・児童の生活や経験及び興味や関心に応じていること。
- ③内容の構成・配列が適切であること。
 - ・系統的、発展的に構成されており、その組織及び相互の関連は適切であること。
 - ・自主的な学習が進められるよう適切な配慮がなされていること。

(2) 形式

- ①表記や表現が適切であること。
 - ・表現が児童にとって分かりやすいこと。
 - ・文字、用語、記号、計量単位等の表記が適切であること。
 - ・挿絵、写真、図表、地図、統計資料等が信頼性のある適切なものであること。
- ②学習に必要な資料への配慮が適切になされていること。
 - ・資料が学習内容の理解や問題の解決に役立ち、学習意欲を喚起するように工夫され、活用されやすいものであること。

2 中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」以外）の採択基準について

学習指導要領の趣旨に則り、山梨県教育振興基本計画を踏まえ、生徒に生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む内容や形式になっているか。

(1) 内容

- ①内容が学習指導要領に照らして適切なものであること。
 - ・基礎的・基本的な内容及びこれらを活用して課題を解決する体験的な学習や問題解決的な学習の内容が、適切に取り上げられていること。
 - ・言語活動を充実する学習が進められるよう配慮がなされていること。
 - ・伝統・文化や環境についての学習が進められるよう配慮がなされていること。
- ②内容の程度が生徒の実態に応じていること。
 - ・心身の発達段階に適応しており、心身の健康や安全及び健全な情操の育成に必要な配慮がなされていること。
 - ・学年間の関連が配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じていること。
 - ・発展的な学習内容についての扱いが適切であること。
- ③内容の構成・配列が適切であること。
 - ・系統的、発展的に構成されており、その組織及び相互の関連は適切であること。
 - ・自主的な学習が進められるよう適切な配慮がなされていること。
- ④内容が地域の実情に応じ得るよう配慮がなされていること。
 - ・各地域の実情や生徒の生活に広く適応できるように工夫されていること。

(2) 形式

- ①表記や表現が適切であること。
 - ・表現が生徒にとって分かりやすいこと。
 - ・文字、用語、記号、計量単位等の表記が適切であること。
 - ・挿絵、写真、図表、地図、統計資料等が信頼性のある適切なものであること。
- ②学習に必要な資料への配慮が適切になされていること。
 - ・資料が学習内容の理解や問題の解決に役立ち、学習意欲を喚起するように工夫され、活用されやすいものであること。

3 特別支援教育関係教科用図書「学校教育法附則第9条第1項の規定による図書」の採択基準について

学習指導要領の趣旨に則り、山梨県教育振興基本計画を踏まえ、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じながら、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、生きる力を育むことができる内容や形式になっているか。

(1) 内容

- ①内容が目標を達成させるために適切なものであること。
 - ・知識及び技能を習得させるために適切な配慮がなされていること。
 - ・主体的に学習に取り組む態度を養うために適切な配慮がなされていること。
 - ・基礎的・基本的な内容が適切に取り上げられていること。
 - ・伝統や文化、環境についての学習が進められるよう配慮されていること。
- ②内容が児童生徒の実態や地域の実情に応じ得るよう適切な配慮がなされていること。
 - ・それぞれの児童生徒の障害の状態や発達段階に応じていること。
 - ・児童生徒の生活や経験及び興味や関心に応じていること。
- ③内容の組織・配列・分量が適切であること。
 - ・意欲的な学習が展開できるよう配慮されていること。

(2) 形式

- ①表記や表現が適切であること。
 - ・表現が児童生徒にとって分かりやすいこと。
 - ・図形、挿絵、写真等が児童生徒にとって適切なものであること。
 - ・活字等の大きさ・字間・行間が読みやすく工夫されていること。
- ②装丁が適切であること。
 - ・本の大きさ、紙質等が工夫されていること。
 - ・製本、装丁が丈夫であること。

□ 市町村教育委員会が協議して採択する方法について

(1) 小学校用教科用図書及び中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」以外）を採択する場合

①採択地区協議会

採択地区に2以上の市町村教育委員会が存する場合、地区内の市町村は、教科用図書の採択を行うため採択地区協議会を設置し、共同して調査研究を行う。

②採択地区協議会の構成

ア 採択地区協議会の委員は、地区内の市町村教育委員会の教育長及び市町村教育委員会の連合体の代表をもって構成する。また、採択により広い視野からの意見を反映させるため、地域の実情に応じて、保護者代表等を加えるよう努めること。

イ 採択地区協議会に会長及び副会長1名を置き、それぞれ委員の互選により選任する。

③採択地区協議会の所掌

地区内の市町村立の小学校及び中学校において使用する教科用図書について協議して種目ごとに種類の教科用図書を決定する。

④教科用図書の調査研究

採択地区協議会には、教科用図書の選定に必要な専門的事項について調査研究等を行うための組織を置く。

⑤学校の意見

採択地区協議会は、各学校において展示会の開催中に行われた教科用図書の研究に基づく希望意見等を参考にすることができる。

⑥教科用図書の選定の方法

採択地区協議会において、最終的に、種目ごとに種類の教科用図書を選定するための具体的な手続きをあらかじめ定めておくこと。

⑦市町村教育委員会が単独で採択する場合

採択地区協議会に準じた組織を置いて適切に採択を行うこと。

(2) 特別支援学級を設置する学校の設置者である市町村教育委員会が協議して採択する場合

特別支援学級を設置する学校の設置者である市町村教育委員会は、各学校の実態を把握する中で、適切な教科用図書を採択する。

なお、市町村教育委員会は、それぞれ採択協議会を設置し、十分な調査研究を行うことが望ましい。

□ 市町村教育委員会の協議が整わない場合の方法について

採択の協議が整わない場合は、県教育委員会の指導助言を得て、再度協議して決定すること。

□ 採択の公正確保について

「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」並びに「同法施行に伴う事務処理に関する通知」に基づいて、県教育委員会は教科用図書採択に関する公正確保についての指導を行うこと。また、市町村教育委員会等各採択権者はそれを受け、教科用図書採択の公正確保に努めること。

(1) 指導の方法及び内容について

①文書等による指導

「教科書採択における公正確保の徹底等について」等の文書指導を行い、県教育委員会及び市町村教育委員会を通して、各学校における公正確保についての趣旨徹底を図るようすること。

②説明会等による指導

教科用図書採択に関する説明会等を通して、教科用図書採択の公正確保についての趣旨徹底を図るようすること。

③訪問、面接等による指導

指導主事による学校訪問等の折、教科用図書採択の公正確保についての趣旨徹底を図るようすること。

(2) 情報公開について

採択事務の円滑な遂行及び採択の公正確保に支障を来さない範囲内で、採択結果及びその理由をはじめとする教科書採択に関する情報の積極的な公開を行うこと。

□ 採択参考資料の構成について

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

文部科学省作成（平成31年4月）の「小学校用教科書目録（平成32年度使用）」に登載された小学校用教科用図書の種目、番号・発行者、教科用図書の記号・番号、掲載順に則って記載する。

2 調査研究の観点

山梨県教育委員会の教科用図書採択基準を基に、各種目「内容」と「形式」に則して4項目を設定する。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行う。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮する。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにする。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮する。

II 採択参考資料の見方について

1 教科書の発行者の記載順序

2 採択参考資料の構成（調査票の内容、配列）

3 調査票の調査研究項目

※各教科等の特性に応じて示している。

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

国 語

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	国語 101・102・201・202・301・302 ・401・402・501・601
11 学図	国語 103・104・203・204・303・304 ・403・404・503・504・603・604
17 教出	国語 105・106・205・206・305・306 ・405・406・505・506・605・606
38 光村	国語 107・108・207・208・307・308 ・407・408・507・607

国 語

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 11 学図 17 教出 38 光村

2 調査研究の観点

- (1) 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達段階に応じて配慮され、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) [知識及び技能] 及び [思考力, 判断力, 表現力等] の「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 文字や表記等が適切であり、我が国の言語文化を継承・発展させる態度を育成することへの配慮がなされているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(2)
 - ① [知識及び技能] の3事項教材数
 - ② [思考力, 判断力, 表現力等] の3領域教材数
 - ③ 読書指導について (紹介されている図書の冊数)
- (2) 児童の実態等に応じる適切な配慮について…………… 観点(2)
 - ① サイズ・ページ構成
 - ② 表記等
- (3) 学習過程について…………… 観点(3)
 - ① 学習の見通し
 - ② 学習活動の取組のポイント
 - ③ 学習の振り返り
- (4) 語彙指導について…………… 観点(4)
- (5) 情報の扱い方について…………… 観点(3)
- (6) 付録・資料…………… 観点(2)

1 概括的な調査研究

(1) [知識及び技能] の3事項教材数 (上巻/下巻)

学 年	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項		(2)情報の扱い 方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項		合 計
	言 葉	漢 字		伝統的な 言語文化	読 書	
1 年	15 / 8	2 / 3	0 / 0	1 / 1	2 / 2	34
2 年	9 / 8	6 / 5	1 / 1	1 / 1	2 / 1	35
3 年	10 / 6	6 / 6	4 / 0	1 / 2	2 / 1	38
4 年	9 / 6	6 / 8	2 / 1	1 / 2	2 / 1	38
5 年	13	10	2	3	3	31
6 年	12	9	2	4	3	30
合 計	96	61	13	17	19	206

※事項別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(1)「言葉」……言葉の働き、話し言葉と書き言葉、語彙、文や文章、言葉遣い、表現の技法

(3)「伝統的な言語文化」……伝統的な言語文化、言葉の由来や変化

(2) [思考力、判断力、表現力等] の3領域教材数 (上巻/下巻)

学 年	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと		合 計
	話すこと 聞くこと	話し合うこと	説明的な文章	実用的な文章 文学的な文章	説明的な文章	文学的な文章	
1 年	5 / 2	0 / 1	1 / 1	2 / 3	2 / 2	5 / 4	28
2 年	3 / 2	1 / 0	2 / 3	2 / 2	2 / 2	4 / 2	25
3 年	2 / 2	1 / 0	2 / 1	1 / 3	2 / 2	4 / 2	22
4 年	2 / 2	1 / 0	2 / 1	2 / 1	2 / 2	4 / 2	21
5 年	4	1	4	2	4	6	21
6 年	4	1	3	2	4	6	20
合 計	28	6	20	20	24	39	137

※領域別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(3) 読書指導について (紹介されている図書の本数) (上巻/下巻)

学 年	本 編		資料・付録		合 計
	文学的文章	説明的文章	文学的文章	説明的文章	
1 年	15 / 50	1 / 19	0 / 0	0 / 0	85
2 年	49 / 19	7 / 13	0 / 0	0 / 0	88
3 年	51 / 12	7 / 9	0 / 0	0 / 0	79
4 年	37 / 26	11 / 11	0 / 0	0 / 0	85
5 年	45	42	0	0	87
6 年	57	29	0	0	86
合 計	361	149	0	0	510

2 児童の実態等に応じる適切な配慮について

(1) サイズ・ページ構成

学 年	上巻(B5判)			下巻(B5判)			上下巻 合 計
	本 編	資料・付録	計	本 編	資料・付録	計	
1 年	129	12	141	141	28	169	310
2 年	147	20	167	145	30	175	342
3 年	153	22	175	133	42	175	350
4 年	147	28	175	133	42	175	350
5 年	261	42	303				303
6 年	255	48	303				303

(2) 表記等

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 物語・説明的文章の脚注罫線に、5行ごとの行字数と1行の点（・）が示されている。

3 学習過程について

(1) 学習の見通し

- 第2学年以上の各巻の冒頭に「国語の学習の進め方」「〇年で学習する言葉の力」が示されている。
- 各単元の冒頭に学習過程が示されている。
 - ・「つかむ」「取り組む」「振り返る」の3項目で構成されている。
 - ・「つかむ」に既習事項の想起を促す「覚えているかな」が示されている。
- A領域、B領域では「学習の見通し」として学習活動の内容が示されている。
- C領域では最初に単元の導入ページがあり、「言葉の力」として身に付けさせる言葉の力が示されている。

(2) 学習活動の取組のポイント

- 単元のねらいに近付くための問いが「単元の問い」として設けられ、それを解決するための言語活動が示されている。
- 学習過程を示したページに、各学習活動に取り組むためのポイントやヒントが文章やイラスト、図等を用いて示されている。

(3) 学習の振り返り

- 「ふり返る」では、振り返りの観点と単元を通して身に付けさせる「言葉の力」が示されている。
- 「生かそう」では、他教科等の学習や日常生活に生かす場面について示されている。

4 語彙指導について

- 巻末資料に「言葉の広場」として、「思考に関わる言葉」や「原因と結果」等、各学年の指導事項に合わせた言葉が示されている。
- 学習用語が「学習で使う言葉」として示されている。
- 第2学年以上の各学年4か所に、四季折々の言葉が「季節の足音」として示されている。

5 情報の扱い方について

- 第2学年以上の各学年の4月の「書くこと」に、「情報の扱い方」に関する小単元が以下のよう
に位置付けられている。
 - ・「いくつあつめられるかな」(2年)、「くらべてみよう」(3年)、「グループにまとめて整理
しよう」(4年)、「事実と考えを区別しよう」(5年)、「原因と結果に着目しよう」(6年)
- 図化・表化等、情報を視覚的に表しながら思考を整理する方法が示されている。

6 付録・資料

- 「付録」として以下の資料が示されている。
 - ・読書教材
 - ・「学習で使う言葉」学習用語のまとめ
 - ・「言葉の広場」学年の指導事項に合わせた語彙
 - ・「〇年で学習した『言葉の力』身に付けさせたい力の系統性
 - ・「新しく習った漢字」「小学校で習う漢字」漢字一覧表
 - ・「ローマ字の表」ローマ字一覧表(3～6年)
- 学習の参考となる資料を閲覧することができる「Dマークコンテンツ」が示されている。

1 概括的な調査研究

(1) [知識及び技能] の3事項教材数 (上巻/下巻)

学 年	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項		(2)情報の扱い 方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項		合 計
	言 葉	漢 字		伝統的な 言語文化	読 書	
1 年	11 / 5	2 / 2	0 / 1	1 / 0	1 / 1	24
2 年	6 / 5	4 / 2	1 / 0	4 / 4	1 / 1	28
3 年	5 / 7	2 / 3	3 / 1	3 / 4	1 / 1	30
4 年	3 / 5	3 / 3	3 / 1	3 / 4	1 / 1	27
5 年	7 / 4	2 / 3	2 / 1	4 / 4	1 / 1	29
6 年	6 / 6	3 / 3	1 / 1	2 / 3	1 / 1	27
合 計	70	32	15	36	12	165

※事項別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(1)「言葉」……言葉の働き、話し言葉と書き言葉、語彙、文や文章、言葉遣い、表現の技法

(3)「伝統的な言語文化」……伝統的な言語文化、言葉の由来や変化

(2) [思考力、判断力、表現力等] の3領域教材数 (上巻/下巻)

学 年	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと		合 計
	話すこと 聞くこと	話し合うこと	説明的な文章	実用的な文章 文学的な文章	説明的な文章	文学的な文章	
1 年	2 / 1	0 / 1	1 / 2	1 / 6	2 / 3	7 / 4	30
2 年	4 / 3	0 / 1	2 / 2	4 / 4	3 / 3	6 / 5	37
3 年	3 / 4	1 / 0	3 / 2	3 / 4	2 / 2	4 / 3	31
4 年	5 / 2	1 / 0	2 / 2	3 / 3	2 / 4	5 / 5	34
5 年	3 / 1	0 / 1	1 / 3	2 / 2	2 / 1	4 / 5	25
6 年	1 / 2	2 / 0	1 / 2	2 / 3	1 / 2	5 / 4	25
合 計	31	7	23	37	27	57	182

※領域別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(3) 読書指導について (紹介されている図書の冊数) (上巻/下巻)

学 年	本 編		資料・付録		合 計
	文学的文章	説明的文章	文学的文章	説明的文章	
1 年	15 / 14	4 / 10	0 / 0	0 / 0	43
2 年	10 / 18	13 / 17	19 / 0	3 / 0	80
3 年	16 / 18	11 / 13	22 / 0	6 / 0	86
4 年	14 / 17	9 / 13	21 / 0	7 / 0	74
5 年	14 / 17	8 / 13	0 / 21	0 / 7	60
6 年	13 / 13	10 / 14	20 / 0	8 / 0	78
合 計	179	135	103	31	448

2 児童の実態等に応じる適切な配慮について

(1) サイズ・ページ構成

学 年	上巻(B5判)			下巻(B5判)			上下巻 合 計
	本 編	資料・付録	計	本 編	資料・付録	計	
1 年	123	13	136	108	20	128	264
2 年	120	20	140	120	16	136	276
3 年	132	26	158	120	28	148	306
4 年	130	28	158	128	24	158	316
5 年	130	42	172	124	40	164	336
6 年	126	38	164	116	46	162	326

(2) 表記等

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 文学・説明的文章の脚注線に、5行ごとの行字数と1行の点（・）が示されている。

3 学習過程について

(1) 学習の見通し

- 第3学年以上の上巻冒頭に「〇年生でつけたい力」として、当該学年で身に付けさせたい資質・能力が示されている。
- 各単元の冒頭に学習過程が示されている。
 - ・「集めよう」「組み立てる」「話そう・聞こう」「読もう」「書こう」「見直そう」等の学習活動が示されている。
- A領域、B領域では「学習の見通しをもとう」として学習活動の内容が示されている。
- C領域では教材文の前に単元のめあてが示され、「学習のてびき」で学習活動の流れが示されている。

(2) 学習活動の取組のポイント

- 単元ごとに、重点項目に当たる学習活動のポイントが「学習のポイントマーク」とともに示されている。

(3) 学習の振り返り

- 教材の最後に、学習を振り返る観点が「ふり返りマーク」で示されている。
- 「国語のカギ」では、単元において定着を図る学習のポイントや読みを深めさせるための視点が示されている。

4 語彙指導について

- 第3学年以上の上巻の冒頭に、言葉を集める活動として「見つける・見つめる」が設けられている。
- 巻末資料に「言葉の部屋」として、様子や行動、気持ちや性格を表す語句や思考に関わる語句等の各学年の指導事項に合わせた言葉が示されている。
- 学習用語が「授業で使う言葉」として示されている。
- 第2学年以上の各学年4か所に、四季折々の言葉が「季節のたより」として示されている。

5 情報の扱い方について

- 第3学年以上の各学年に「情報の扱い方」に関する小単元が以下の2系列で位置付けられている。
 - ・情報を論理的・分析的な観点から捉える「論理的思考力単元」(上巻)、言葉を想像的な観点から捉える「感性的思考力単元」(下巻)
- 図化・表化等、情報を視覚的に表しながら思考を整理する方法が示されている。

6 付録・資料

- 「資料編」として以下の資料が示されている。
 - ・「授業で使う言葉」学習用語のまとめ
 - ・「国語のカギ」領域別の学習の方法やポイント
 - ・「読書の部屋」図書の紹介、読書教材
 - ・「この本で学習した漢字」「〇年生までに学習した漢字」漢字一覧表
 - ・「言葉の部屋」学年の指導事項に合わせた語彙
 - ・「ローマ字の表」ローマ字一覧表(3, 5, 6年)
- 学習の参考となる資料を閲覧することができるQRコードが示されている。

1 概括的な調査研究

(1) [知識及び技能] の3事項教材数 (上巻/下巻)

学 年	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項		(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項		合 計
	言 葉	漢 字		伝統的な言語文化	読 書	
1 年	11 / 3	3 / 4	0 / 0	0 / 2	5 / 1	29
2 年	2 / 3	5 / 5	4 / 3	2 / 1	1 / 1	27
3 年	3 / 2	5 / 4	4 / 5	2 / 4	1 / 1	31
4 年	1 / 2	4 / 6	7 / 7	4 / 2	0 / 2	35
5 年	2 / 2	5 / 5	7 / 4	3 / 4	0 / 1	33
6 年	2 / 2	6 / 5	4 / 3	4 / 3	0 / 1	30
合 計	35	57	48	31	14	185

※事項別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(1)「言葉」……言葉の働き、話し言葉と書き言葉、語彙、文や文章、言葉遣い、表現の技法

(3)「伝統的な言語文化」……伝統的な言語文化、言葉の由来や変化

(2) [思考力、判断力、表現力等] の3領域教材数 (上巻/下巻)

学 年	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと		合 計
	話すこと 聞くこと	話し合うこと	説明的な文章	実用的な文章 文学的な文章	説明的な文章	文学的な文章	
1 年	6 / 2	1 / 0	2 / 2	3 / 3	2 / 2	5 / 6	34
2 年	3 / 1	0 / 1	3 / 3	1 / 1	1 / 2	5 / 5	26
3 年	3 / 3	1 / 0	1 / 1	2 / 2	2 / 2	4 / 3	24
4 年	4 / 2	0 / 1	1 / 1	3 / 2	2 / 2	4 / 3	25
5 年	3 / 1	1 / 0	1 / 1	3 / 2	3 / 2	4 / 3	24
6 年	2 / 2	1 / 0	1 / 1	3 / 1	1 / 2	5 / 2	21
合 計	32	6	18	26	23	49	154

※領域別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(3) 読書指導について (紹介されている図書の冊数) (上巻/下巻)

学 年	本 編		資料・付録		合 計
	文学的文章	説明的文章	文学的文章	説明的文章	
1 年	23 / 3	0 / 4	8 / 25	4 / 3	70
2 年	9 / 4	4 / 4	22 / 23	4 / 5	75
3 年	6 / 4	5 / 4	26 / 22	2 / 7	76
4 年	7 / 4	4 / 4	12 / 21	14 / 6	72
5 年	4 / 8	2 / 0	26 / 14	2 / 16	72
6 年	4 / 2	3 / 3	15 / 11	11 / 18	67
合 計	78	37	225	92	432

2 児童の実態等に応じる適切な配慮について

(1) サイズ・ページ構成

学 年	上巻(B5判)			下巻(B5判)			上下巻 合 計
	本 編	資料・付録	計	本 編	資料・付録	計	
1 年	123	13	136	143	31	174	310
2 年	133	27	160	135	29	164	324
3 年	137	23	160	125	35	160	320
4 年	133	27	160	143	39	182	342
5 年	121	31	152	133	47	180	332
6 年	124	44	168	115	53	168	336

(2) 表記等

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 第1学年では、語や文節の途中で改行されないように文字数が調整されている。

3 学習過程について

(1) 学習の見通し

- 各巻の冒頭に「〇年生で学ぶこと」が示されている。
 - ・「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域と知識及び技能の3事項が示されている。
- 各単元の冒頭に学習過程が示されている。
- A領域、B領域では「学習の進め方」として学習活動の内容が示されている。
- C領域では「確かめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」の見出しとともに、学習活動の内容が示されている。

(2) 学習活動の取組のポイント

- 学習過程を示したページの下段に、各学習活動に取り組むためのポイントやヒントが文章やイラスト、図などを用いて示されている。

(3) 学習の振り返り

- 「ふり返ろう」では、単元のねらいや学習活動に対応した観点が示されている。
- 「ここが大事」では、他の教材等での活用が考えられる学習のポイントについて示されている。

4 語彙指導について

- 各単元において、「言葉」として文脈の中での特徴的な語句の使い方が示されている。
 - ・「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」が示されている。
- 巻末資料に「言葉の木」として、各学年の指導事項に合わせた言葉が示されている。また、「言葉のまとめ」として、文型が示されている。
- 学習用語が、「学ぶときにつかう言葉」として示されている。
- 第3学年以上の各学年に、「文化」として四季の言葉等が示されている。

5 情報の扱い方について

- 第2学年以上の各学年に「情報の扱い方」に関する教材を位置付けている。
 - ・「ここが大事」として、情報を取り出し、情報同士の関係を整理する際のポイントが示されている。
 - ・各領域の教材と関連付けて「原因と結果」「比較・分類」等が示されている。
- 情報を視覚的に表すことを通して、情報を整理する方法が示されている。

6 付録・資料

- 「付録」として以下の資料が示されている。
 - ・読書教材
 - ・「学ぶときに使う言葉」学習用語のまとめ
 - ・『ここが大事』のまとめ 身に付けさせたい力の系統性
 - ・「言葉の木」学年の指導事項に合わせた語彙
 - ・「言葉のまとめ」学年の指導事項に合わせた文型
 - ・「漢字を学ぼう」「小学校で学んだ漢字」漢字一覧表
 - ・「ローマ字表」ローマ字一覧表（3年）
 - ・「はってん」当該学年学習指導要領外の教材（6年下巻）
- 学習の参考となる資料を閲覧することができる「まなびリンク」が示されている。

1 概括的な調査研究

(1) [知識及び技能] の3事項教材数 (上巻/下巻)

学 年	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項		(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項		合 計
	言 葉	漢 字		伝統的な言語文化	読 書	
1 年	5 / 7	1 / 2	0 / 0	3 / 2	2 / 1	23
2 年	3 / 4	5 / 4	2 / 1	4 / 4	3 / 0	30
3 年	1 / 3	4 / 5	4 / 2	4 / 4	2 / 0	29
4 年	2 / 1	5 / 8	4 / 2	4 / 4	2 / 0	32
5 年	5	9	4	9	3	30
6 年	3	10	4	8	3	28
合 計	34	53	23	46	16	172

※事項別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(1) 「言葉」……言葉の働き、話し言葉と書き言葉、語彙、文や文章、言葉遣い、表現の技法

(3) 「伝統的な言語文化」……伝統的な言語文化、言葉の由来や変化

(2) [思考力、判断力、表現力等] の3領域教材数 (上巻/下巻)

学 年	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと		合 計
	話すこと 聞くこと	話し合うこと	説明的な文章	実用的な文章 文学的な文章	説明的な文章	文学的な文章	
1 年	9 / 2	0 / 1	5 / 4	0 / 2	2 / 2	7 / 4	39
2 年	4 / 1	0 / 1	2 / 1	1 / 3	2 / 2	3 / 4	24
3 年	2 / 1	1 / 1	1 / 1	1 / 2	3 / 2	4 / 4	23
4 年	3 / 1	0 / 1	1 / 2	1 / 1	3 / 2	4 / 4	23
5 年	3	2	3	2	5	7	22
6 年	3	2	2	3	7	8	25
合 計	29	9	22	16	30	49	156

※領域別の主な教材数。巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(3) 読書指導について (紹介されている図書の冊数) (上巻/下巻)

学 年	本 編		資料・付録		合 計
	文学的文章	説明的文章	文学的文章	説明的文章	
1 年	12 / 7	4 / 4	0 / 7	0 / 3	37
2 年	23 / 4	7 / 4	11 / 9	9 / 8	75
3 年	10 / 15	18 / 10	11 / 9	10 / 8	91
4 年	12 / 10	12 / 7	14 / 9	9 / 8	81
5 年	26	25	19	19	89
6 年	16	21	18	20	78
合 計	138	112	107	94	451

2 児童の実態等に応じる適切な配慮について

(1) サイズ・ページ構成

学 年	上巻(B5判)			下巻(B5判)			上下巻 合 計
	本 編	資料・付録	計	本 編	資料・付録	計	
1 年	123	9	132	123	13	136	268
2 年	132	24	156	132	32	164	320
3 年	128	32	160	136	24	160	320
4 年	126	34	160	138	26	164	324
5 年	240	56	296				296
6 年	246	64	310				310

(2) 表記等

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 第1, 2学年では、語や文節の途中で改行されないように文字数が調整されている。

3 学習過程について

(1) 学習の見通し

- 各巻の冒頭に「国語の学びを見わたそう」「〇年で学習すること」が示されている。
 - ・「初めに」「読む, 書く, 話す・聞く」「ふりかえる」「学習や生活にいかす」の4項目で構成されている。
- 各単元の冒頭に学習過程が示されている。
 - ・各単元の冒頭に既習事項を確認する「〇学年の学びを確かめよう」が示されている。
- A領域, B領域では「学習の進め方」として学習活動の内容が示されている。
- C領域では「見通しをもとう」として目標と学習活動が示されている。また, ページ上段に「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」の学習活動が示されている。

(2) 学習活動の取組のポイント

- 学習過程を示したページの下段に, 各学習活動に取り組むためのポイントやヒントが文章やイラスト, 図等を用いて示されている。
- 学習のポイントがキャラクターの会話で, 文例とともに示されている。

(3) 学習の振り返り

- 「ふりかえろう」では, 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で示されている。
- 「たいせつ」では, 学習のポイントについて, 「いかそう」では, 他教科や日常生活場面で活用できる場面について示されている。

4 語彙指導について

- 巻末資料に「言葉の宝箱」として, 各学年の指導事項に合わせた「考えや気持ちを伝える言葉」が示されている。
- 学習用語が「学習に用いる言葉」として示されている。
- 第2学年以上の各学年4か所に, 四季折々の言葉が「季節の言葉」として示されている。

5 情報の扱い方について

- 第2学年以上の各学年に「情報」として, 「情報の扱い方」に関する小単元が以下の4系列で位置付けられている。
 - ・「考えるときに使おう」(比較・分類), 「関係をとらえよう」(順序・考えの例), 「集めるときに使おう」(メモ・引用)「調べるときに使おう」(事典・資料)
- 図化・表化等, 情報を視覚的に表しながら思考を整理する方法が示されている。

6 付録・資料

- 「付録」として以下の資料が示されている。
 - ・『「たいせつ」のまとめ』身に付けさせたい力の系統性
 - ・「課題の見つけ方, 調べ方」
 - ・「本の世界を広げよう」読書教材
 - ・「言葉の宝箱」学年の指導事項に合わせた語彙
 - ・「これまでに習った漢字」「この本で習う漢字」漢字一覧表
 - ・「ローマ字の表」ローマ字一覧表(3~6年)
- 学習の参考となる資料を閲覧することができるQRコードが示されている。

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

書 写

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	書写 101・201・301・401・501・601
11 学図	書写 102・202・302・402・502・602
17 教出	書写 103・203・303・403・503・603
38 光村	書写 104・204・304・404・504・604
116 日文	書写 105・205・305・405・505・605

書 写

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 11 学図 17 教出 38 光村 116 日文

2 調査研究の観点

- (1) 国語で正確に理解し適切に表現する上で必要となる「書写」の資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 内容の程度が心身の発達段階に応じて配慮されているか。
- (3) 「書写に関する事項」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 文字や表記等が適切であり、学習に必要な写真や図表等の資料への配慮がなされているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究 観点(1)～(3)
 - ① ページ数, 単元数 ② 教材数
- (2) 具体的な指導事項等について 観点(1)～(3)
 - ① 姿勢・筆記具の持ち方 ② 筆順, 点画 ③ 字形
 - ④ 文字の大きさ, 配列 ⑤ 筆圧, 書く速さ ⑥ 硬筆と毛筆との関連
- (3) 日常生活や学習活動とのつながりについて (言語活動例等) 観点(1)(2)
- (4) 伝統的な言語文化に関する事項の指導について 観点(1)
- (5) その他の特色について 観点(3)(4)

1 概括的な調査研究

(1) ページ数, 単元数

学年	ページ数	単元数
1年	49	4
2年	45	3
3年	57	9
4年	53	9
5年	53	8
6年	53	8
総数	310	41

- 各学年1冊 計6冊
- AB判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数			行書を扱っている教材数	日常生活や学習活動に関わる教材数	伝統的な言語文化に関わる教材数
	漢字	仮名	漢字と仮名			
1年	0	0	0	0	2	1
2年	0	0	0	0	3	2
3年	7	1	2	0	5	1
4年	7	1	2	0	5	1
5年	4	1	5	0	5	4
6年	3	1	5	0	4	2
全	21	4	14	0	24	11

※1, 2年では, 水筆が扱われている。

2 具体的な指導事項等について

(1) 姿勢, 筆記具の持ち方

- 毛筆の姿勢と硬筆の姿勢が対比して示されている。(3~6年)
- 左手で文字を書く人の鉛筆の持ち方が示されている。(1, 2年)
- 毛筆(大筆)の持ち方と鉛筆の持ち方が対比して示されている。(3~6年)
- フェルトペンの持ち方が示されている。(1, 2年)

※扱う筆記具 鉛筆 毛筆(大筆, 小筆) 水筆 絵筆 筆ペン
フェルトペン ボールペン 色鉛筆

(2) 筆順, 点画

- 平仮名や片仮名, 漢字には, 筆順が数字で示されている。
- 「書写のかぎ」で筆順のきまりが10個示されている。
- 「始筆」「送筆」「終筆」が「とん」「すう」「びたっ」等の表現で示されている。(3~6年)
- 毛筆の穂先の向きや動きが, キャラクターを使って示されている。(3~6年)

(3) 字形

- 似ている片仮名, 似ている平仮名と片仮名, 似ている片仮名と漢字が対比して示されている。(2年)
- 平仮名, 片仮名, 漢字の外形が図形で示されている。
- 漢字が部首になるときの変化が, 「ぐっ」, 「ぐいつ」, 「ちょきちょき」という表現で示されている。(4年)

(4) 文字の大きさ, 配列

- 平仮名は漢字より小さめに書くことが示されている。(3～6年)
- 画数の少ない漢字や「くにがまえ」のような囲む形の漢字は小さめに書くことが示されている。(5, 6年)
- 用紙に合った文字の大きさと配列が示されている。(5, 6年)

(5) 筆圧, 書く速さ

- 筆圧を3段階に分け, 文字の太さによって筆圧の加え方が示されている。(3年)
- 場面や目的に応じて速さを考えて書くことが示されている。(6年)
- 「手書き文字のいろいろな書き方」が5つ示されている。(6年)

(6) 硬筆と毛筆との関連

- 毛筆の学習の後の硬筆の学習に, 漢字の書き取りやノートから言葉を探して書くなどの課題がある。(5, 6年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて (言語活動例等)

- 日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
日記 (1年) ノート (1, 4, 5年) 連絡帳, 観察カード (2年) 便箋 (2, 4年)
原稿用紙, 実験記録, 読書記録カード (3年) はがき (3, 4, 6年)
封筒 (3, 4年) 新聞 (4年) リーフレット (5年) メモ (6年)
ポスター (5, 6年)
- 他教科との関連が図られている。

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 伝統的な言語文化に関わる教材が取り上げられている。
昔話 (1, 2年) いろは歌 (2年) 俳句 (3, 5年) 百人一首 (4年)
竹取物語, 枕草子 (5年) 漢詩, 論語 (6年)
- 書き初めが取り上げられている。(全学年)

5 その他の特色について

- 「書写の学び方」が示されている。(2～6年)
- 教材の末尾に, 「ふり返って話そう」が設けられている。(全学年)
- 教材内に「Dマーク」が付いている。(全学年)
- 水書シート (色: ピンク) が付いている。(1, 2年)
- 「書写のかぎ」インデックスが示されている。(3～6年)
- 書体や色使いやレイアウト等に, ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。(全学年)

1 概括的な調査研究

(1) ページ数, 単元数

学年	ページ数	単元数
1年	51	7
2年	47	9
3年	51	8
4年	59	9
5年	53	7
6年	51	6
総数	312	46

- 各学年1冊 計6冊
- B5判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数			行書を扱っている教材数	日常生活や学習活動に関わる教材数	伝統的な言語文化に関わる教材数
	漢字	仮名	漢字と仮名			
1年	0	0	0	0	3	0
2年	0	0	0	0	3	0
3年	4	2	1	0	6	1
4年	5	1	1	0	8	5
5年	2	1	3	0	8	2
6年	1	0	4	1	7	2
全	12	4	9	1	35	10

※1, 2年では, 水筆が扱われている。

2 具体的な指導事項等について

(1) 姿勢, 筆記具の持ち方

- 硬筆の姿勢が示されている。(全学年)
 - 硬筆の姿勢と毛筆の姿勢が対比して示されている。(3~6年)
 - 鉛筆の持ち方(全学年), 毛筆の持ち方(3~6年)が示されている。
 - 水筆やフェルトペン, サインペンの持ち方が示されている。(1, 2年)
- ※扱う筆記具 鉛筆 毛筆(大筆, 小筆) 水筆 筆ペン
 フェルトペン サインペン ボールペン 色鉛筆
 チョーク クレヨン

(2) 筆順, 点画

- 平仮名と片仮名及び当該学年で出てくる全ての新出漢字に, 筆順が数字で示されている。
- 筆順のきまりが6つ示されている。
- 「始筆」「送筆」「終筆」が「トン」「スーッ」「ピタッ」の表現で示されている。(3年)
- 毛筆の穂先の向きが, 三角定規にたとえて示されている。(3年)

(3) 字形

- 似ている片仮名, 似ている平仮名と片仮名, 似ている片仮名と漢字が対比して示されている。(2年)
- 平仮名, 漢字の外形が図形で示されている。
- 部首とその元の漢字を並べて, 字形の変化が示されている。(4, 6年)

(4) 文字の大きさ, 配列

- 平仮名は漢字より小さめに書くことが示されている。(3~6年)
- 画数の少ない漢字は小さく書くことが示されている。(3~6年)
- 用紙に対する文字の大きさと配列が示されている。(5, 6年)

(5) 筆圧, 書く速さ

- 3筆圧を3段階に分けて, 筆圧の加え方が示されている。(3年)
- 「メモの取り方」の中で, 速く書くための工夫が示されている。(5年)
- 「漢字のいろいろな書き方」が6つ示されている。(6年)

(6) 硬筆と毛筆との関連

- 毛筆の学習の後の「ふり返ろう」で, 好きな本や映画の題名を書くなどの課題が設定されている。(3~6年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて (言語活動例等)

- 日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
ノート (1~4年) 観察カード (1年) 紹介カード (2年) 原稿用紙 (2~6年)
はがき (3~6年) 便箋・封筒 (3~6年) プログラム, 学級新聞 (4年)
メモ, 生活目標を書く, メッセージカード, 資料 (5年) お知らせ (6年)
- 他教科との関連が図られている。

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 伝統的な言語文化に関わる教材が取り上げられている。
俳句 (3, 4年) 論語カルタ・百人一首 (4年) ことわざ (4, 5年)
論語 (4, 6年) 枕草子 (5年) いろは歌 (6年)
- 書き初めが取り上げられている。(全学年)

5 その他の特色について

- 「教科書の使い方」が示されている。(1~6年)
- 教材の末尾の「ふり返ろう」で, 学校生活や日常生活に即した課題が設定されている。(全学年)
- 「書き方のカギシール」(単元目標に貼るシールと単元目標以外の自己の課題がある部分に貼るシール) が付いている。(1, 2年)
- 教材内にキャラクター達の対話が多く示されている。(全学年)
- QRコードが付いている。(全学年)
- 書体や色使いやレイアウト等に, ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。(全学年)

1 概括的な調査研究

(1) ページ数, 単元数

学年	ページ数	単元数
1年	49	4
2年	41	3
3年	61	8
4年	61	8
5年	53	9
6年	53	6
総数	318	38

- 各学年1冊 計6冊
○ B5判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数			行書を扱っている教材数	日常生活や学習活動に関わる教材数	伝統的な言語文化に関わる教材数
	漢字	仮名	漢字と仮名			
1年	0	0	0	0	3	0
2年	0	0	0	0	5	1
3年	6	2	1	0	7	1
4年	8	1	1	0	9	1
5年	5	1	3	0	6	1
6年	6	0	5	1	7	2
全	25	4	10	1	37	6

※1, 2年では, 水筆が扱われている。

2 具体的な指導事項等について

(1) 姿勢, 筆記具の持ち方

- 硬筆の姿勢 (1, 2年) や毛筆の姿勢 (3~6年) が示されている。
○鉛筆の持ち方とはしの持ち方が対比して示されている。(1, 2年)
○毛筆 (大筆, 小筆) の持ち方と鉛筆の持ち方が対比して示されている。(3~6年)
○フェルトペンの持ち方 (1, 2年), チョークの持ち方 (5年) が示されている。

※扱う筆記具 鉛筆 毛筆 (大筆, 小筆) 水筆 絵筆
フェルトペン ボールペン 筆ペン サインペン
絵の具筆 色鉛筆 チョーク

(2) 筆順, 点画

- 平仮名や片仮名, 漢字には, 筆順が数字で示されている。
○筆順のきまりが8つ示されている。
○「始筆」「送筆」「終筆」が「とん」「すうっ」「びたっ」等の表現で示されている。(3, 4年)
○毛筆の穂先の向きが「10時半の向き」と示されている。(3, 4年)

(3) 字形

- 似ている平仮名(1年), 似ている片仮名(1, 2年), 似ている平仮名と片仮名(1年)が対比して示されている。
- 平仮名, 片仮名, 漢字の外形が図形で示されている。
- 部首とその元の漢字を並べたり重ねたりして, 字形の変化が示されている。(4~6年)

(4) 文字の大きさ, 配列

- 平仮名は漢字より小さめに書くことが示されている。(3~6年)
- 画数の少ない漢字は小さめに書くと, つり合いがとれることが示されている。(5, 6年)
- 用紙に対する文字の大きさと配列が示されている。(5, 6年)

(5) 筆圧, 書く速さ

- 筆圧を3段階に分けて, 「ちゅん」「とっ」「とん」という表現で示されている。(2, 3, 4年)
- 目的に合った書く速さが示されている。(5年)
- 手書きのいろいろな書き方が3つ示されている。(6年)

(6) 硬筆と毛筆との関連

- 毛筆の学習の始めと終わりに書く「ためし書き」と「まとめ書き」の欄がある。(3~6年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて(言語活動例等)

- 日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
ノート(1, 2, 3, 4, 6年) カード, 連絡帳(1年) メモ(2~6年)
招待状, 本の紹介カード(2年) はがき(3~5年)
原稿用紙, 展覧会作品のカード(3年) 発表資料, かるた, 学級新聞(4年)
便箋, 封筒(3~6年) ポスター(5年) リーフレット(6年)
- 他教科との関連が図られている。

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 伝統的な言語文化に関わる教材が取り上げられている。
昔話(2年) 俳句(3, 6年) 短歌(4年) 竹取物語(5年) 枕草子(6年)
- 書き初めが取り上げられている。(全学年)

5 その他の特色について

- 「学習の進め方」が示されている。(1~6年)
- 教材の末尾に, 自己評価欄が設けられている。(全学年)
- りんごのアイコン(1, 2年), 鳥のアイコン(3~6年)で示すことによって, めあてや評価欄等をリンクさせている。
- QRコードが付いている。(全学年)
- 水書シート(色:グリーン)が付いている。(1年)
- 書体や色使いやレイアウト等に, ユニバーサルデザインの視点が入り込められている。(全学年)

1 概括的な調査研究

(1) ページ数, 単元数

学年	ページ数	単元数
1年	45	5
2年	41	4
3年	57	6
4年	53	6
5年	55	6
6年	53	5
総数	304	32

○ 各学年1冊 計6冊

○ B5判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数			行書を扱っている教材数	日常生活や学習活動に関わる教材数	伝統的な言語文化に関わる教材数
	漢字	仮名	漢字と仮名			
1年	0	0	0	0	3	0
2年	0	0	0	0	3	1
3年	8	2	2	0	4	1
4年	8	1	2	0	8	1
5年	5	1	4	0	9	1
6年	5	1	6	1	10	2
全	26	5	14	1	37	6

※1, 2年では, 水筆が扱われている。

2 具体的な指導事項等について

(1) 姿勢, 筆記具の持ち方

○毛筆(大筆)と硬筆の姿勢(3, 4年), 毛筆(大筆, 小筆)と硬筆の姿勢(5, 6年)が対比して示されている。

○鉛筆の持ち方とはしの持ち方が類似していることが示されている。(2年)

○硬筆では手の動かし方(1年), 毛筆では腕の使い方(3年)が示されている。

○水筆(1年)やフェルトペン(1, 2年)の持ち方が示されている。

※扱う筆記具 鉛筆 毛筆(大筆, 小筆) 水筆 フェルトペン
筆ペン ボールペン 色鉛筆 シャープペンシル

(2) 筆順, 点画

○平仮名や片仮名, 漢字には, 筆順が数字で示されている。

○筆順のきまりが4つ示されている。

○「始筆」「送筆」「終筆」が「トン」「スー」「ピョン」等の表現で示されている。(3年)

○毛筆の穂先の向きや動きが, キャラクター(「ななめほさきちゃん」)を使って示されている。(3年)

(3) 字形

- 似ている平仮名 (1年), 似ている漢字と片仮名 (1年), 似ている漢字 (2年) が対比して示されている。
- 平仮名, 片仮名, 漢字の外形が図形で示されている。
- 部首とその元の漢字を重ねて, 字形の変化が示されている。(4~6年)

(4) 文字の大きさ, 配列

- 漢字は大きめに, 平仮名は小さめに書くことが示されている。(4~6年)
- 画数の少ない漢字や周りが線で囲まれている漢字は小さめに書くことが示されている。(4~6年)
- 用紙に合った文字の大きさと配列が示されている。(5, 6年)

(5) 筆圧, 書く速さ

- 筆圧を3段階に分けて, 筆圧の加え方が示されている。(3, 4, 6年)
- 場面に合った書く速さと, 「速く書くためのコツ」が示されている。(5年)
- 「漢字のいろいろな書き方」が6つ示されている。(5年)

(6) 硬筆と毛筆との関連

- 毛筆の学習の後に, 硬筆の学習が設定されている。(3~6年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて (言語活動例等)

- 日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
紹介文, 観察記録 (1年) ノート (1, 3, 4, 6年) 原稿用紙 (2, 4, 6年)
招待状, 連絡帳 (2年) 便箋 (3~6年) 封筒 (3~5年) リーフレット (4年)
インタビューメモ, お知らせ, 名刺 (5年) はがき (4~6年)
新聞記事, ポスター (5, 6年) 短冊, 電子メール (6年)
- 他教科との関連が図られている。

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 伝統的な言語文化に関わる教材が取り上げられている。
いろはうた (2年) 俳句 (3, 6年) 百人一首 (4年) 竹取物語 (5年)
短歌 (6年)
- 書き初めが取り上げられている。(全学年)

5 その他の特色について

- 「学習の進め方」が示されている。(3~6年)
- 教材の末尾に, 自己評価欄 (1年:「できたかな」, 2~6年:「ふり返ろう」) が設けられている。
- 評価に活用できる「たしかめようシール」が付いている。(3年)
- QRコードが付いている。(全学年)
- 水書シート (色: グレー) (1年) や「書写ブック」(6年) が付いている。
- 書体や色使いやレイアウト等に, ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。(全学年)

1 概括的な調査研究

(1) ページ数, 単元数

学年	ページ数	単元数
1年	41	5
2年	41	5
3年	57	8
4年	57	7
5年	53	6
6年	53	7
総数	302	38

- 各学年1冊 計6冊
- B5判

(2) 教材数

	毛筆を扱っている教材数			行書を扱っている教材数	日常生活や学習活動に関わる教材数	伝統的な言語文化に関わる教材数
	漢字	仮名	漢字と仮名			
1年	0	0	0	0	4	0
2年	0	0	0	0	5	0
3年	8	2	1	0	5	2
4年	7	1	2	0	6	1
5年	5	1	5	1	8	2
6年	5	0	5	1	9	2
全	25	4	13	2	37	7

※1, 2年では, 水筆が扱われている。

2 具体的な指導事項等について

(1) 姿勢, 筆記具の持ち方

- 硬筆の姿勢が示されている。(全学年)
- 毛筆と硬筆の姿勢(3, 4年), 毛筆(大筆, 小筆)と硬筆の姿勢(5, 6年)が対比して示されている。
- 鉛筆の持ち方と, フェルトペンの持ち方, はしの持ち方が対比して示されている。(2年)
- 毛筆(大筆, 小筆)の持ち方, 鉛筆の持ち方, フェルトペンの持ち方が対比して示されている。(3~6年)

※扱う筆記具 鉛筆 毛筆(大筆, 小筆) 水筆 フェルトペン
筆ペン ボールペン 絵の具筆 シャープペンシル

(2) 筆順, 点画

- 平仮名や片仮名, 漢字には, 筆順が数字で示されている。
- 筆順のきまりが8つ示されている。
- 「始筆」「送筆」「終筆」が「トン」「スーッ」「ピタッ」等の表現で示されている。(3年)
- 毛筆の穂先の向きが, 折り紙を半分に折ったときの角度で(3年), 毛筆の穂先の向きや動きが, キャラクターを使って(3~6年)示されている。

(3) 字形

- 似ている平仮名(2年), 似ている片仮名(1, 2年), 似ている平仮名と片仮名(1年), 似ている漢字と片仮名(1年)が対比して示されている。
- 平仮名, 漢字の外形が図形で示されている。
- 部首とその元の漢字を並べて, 字形の変化が示されている。(4年)

(4) 文字の大きさ, 配列

- 平仮名は漢字より小さめに書くことが示されている。(3~6年)
- 画数の少ない漢字を小さめに書くことが示されている。(4年)
- 用紙に対する文字の大きさと配列が示されている。(5, 6年)

(5) 筆圧, 書く速さ

- 筆圧を3段階に分けて, 「ぐうっ」「とん」「ちょん」という表現で示されている。(3, 4年)
- 場面によって書く速さが違うことが示されている。(5年)
- 「いろいろな書き方」が9つ示されている。(5年)

(6) 硬筆と毛筆との関連

- 毛筆の学習の後に, 硬筆の学習が設定されている。(3~6年)

3 日常生活や学習活動とのつながりについて(言語活動例等)

- 日常生活や学習活動に関わる内容が取り上げられている。
絵日記(1, 2年) ノート(1, 6年) はがき(1, 3, 4, 5, 6年)
スピーチ(1年) 原稿用紙(2~6年) 連絡帳, 観察記録(2年)
メモ(2, 5, 6年) 学習新聞(3年) 便箋・封筒(3~6年)
リーフレット(4年) 掲示物(4~6年) 提案文(5年)
エアメール(5, 6年)
- 他教科との関連が図られている。

4 伝統的な言語文化に関する事項の指導について

- 伝統的な言語文化に関わる教材が取り上げられている。
俳句(3, 4, 6年) ことわざ(3年) いろはうた・竹取物語(5年)
枕草子(6年)
- 書き初めが取り上げられている。(全学年)

5 その他の特色について

- 「学習の進め方」が示されている。(1~6年)
- 教材の末尾に, 自己評価欄(「できたかな」)が設けられている。(全学年)
- 鳥のアイコン(1, 2年), 花のアイコン(3, 4年), だるまのアイコン(5, 6年)で示すことによって, めあてと自己評価とをリンクさせている。
- 水書シート(色: グレー)が付いている。(1, 2年)
- 書く姿勢や筆記具の持ち方, 用具の扱い方・後始末の仕方は, ウェブサイトにアクセスすることで, 教科書デジタルコンテンツを視聴することができるようになっている。(全学年)
- 書体や色使いやレイアウト等に, ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。(全学年)

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

社 会

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	社会 301・401・501・502・601・602
17 教出	社会 303・403・503・603
116 日文	社会 304・404・504・604

社 会

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 17 教出 116 日文

2 調査研究の観点

- (1) 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することができる内容であるか。
- (2) 地域の実情に応じた学習を行うことができるよう配慮されており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 各内容の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 表記や表現、各種の資料が適切であり、資料が活用されやすいよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)
 - ① 総頁数・サイズ
 - ② 単元別頁数
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること…………… 観点(1)
- (3) 問題解決的な学習の充実に関すること…………… 観点(2)(3)
- (4) 学習指導要領で改善が図られた内容に関すること…………… 観点(1)(2)(3)
- (5) 教材や資料の選択に関すること…………… 観点(2)(4)

1 概括的な調査研究

(1) 総頁数・サイズ

	3年	4年	5年上	5年下	6年政治・国際編	6年歴史編
新しい社会 A B判	147	179	127	143	115	159

(2) 単元別頁数

学年	単元名	頁	割合	学年	単元名	頁	割合
3年	わたしたちのまちみんなのまち	30	20%	6年 政治・国際編	私たちの生活と政治	58	50%
	はたらく人とわたしたちの暮らし	56	38%		世界の中の日本	48	42%
	暮らしを守る	30	20%		その他	9	8%
	市のうつりかわり	22	15%		縄文のむらから古墳のくにへ	16	10%
	その他	9	6%		天皇中心の国づくり	12	8%
4年	わたしたちの県	24	13%	6年 歴史編	貴族の暮らし	8	5%
	住みよいくらしをつくる	44	25%		武士の世の中へ	12	8%
	自然災害から暮らしを守る	24	13%		今に伝わる室町文化	8	5%
	きょう土の伝統・文化と先人たち	40	22%		戦国の世から天下統一へ	12	8%
	特色ある地いきと人々の暮らし	36	20%		江戸幕府と政治の安定	14	9%
	その他	11	6%		町人の文化と新しい学問	12	8%
5年上	わたしたちの国土	60	47%		明治の国づくりを進めた人々	14	9%
	わたしたちの生活と食料生産	58	46%		世界に歩みだした日本	12	8%
	その他	9	7%		長く続いた戦争と人々の暮らし	14	9%
5年下	わたしたちの生活と工業生産	54	38%		新しい日本, 平和な日本へ	14	9%
	情報化した社会と産業の発展	42	29%	その他	11	7%	
	わたしたちの生活と環境	42	29%				
	その他	5	3%				

※その他は、目次、「まなび方コーナー」等の資料の頁数

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、用語・語句が「ことば」として説明とともに示されている。
- 全ての学年において、巻末に用語・語句等が一覧で示されている。
- 全ての学年において、学習を進める上での技能を示した「学び方コーナー」がある。

3 問題解決的な学習の充実に関すること

- 全ての学年において、「学習の進め方」があり、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という問題解決的な学習の流れが示されている。
- 全ての学年において、単元ごと、1時間ごとの問いの例が示されている。
- 全ての学年において、社会的事象の見方・考え方がキャラクターの吹き出しで示されている。
- 全ての学年において、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりする「いかす」が設けられている。
- 全ての学年において、単元末に「まとめる」があり、言語活動の例が示されている。

4 学習指導要領で改善が図られた内容に関すること

○第3学年

- ・「市の様子の移り変わり」について、人口増加、高齢化、国際化に関する記述がある。(事例地：明石市)
- ・地図帳の使い方が示されている。
- ・地図記号の説明に、該当する施設等の写真が示されている。

○第4学年

- ・「自然災害から人々を守る活動」について、地震・津波災害(浜松市)が取り上げられている。また、児童の実態に応じて扱うことが可能な「ひろげる」として、風水害(常総市)、火山災害(長野県大滝村)が取り上げられている。
- ・国際交流に取り組んでいる地域の事例地として仙台市が取り上げられている。

○第5学年

- ・「領土の範囲」について、「領土をめぐる問題」において、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることが示されている。また、「新しい日本、平和な未来へ」(第6学年)で領土に関する課題が取り上げられている。
- ・「我が国の産業と情報との関わり」について、販売が取り上げられている。また、「ひろげる」として、運輸、観光、福祉が取り上げられている。

○第6学年

- ・「国や地方公共団体の政治」について、市(区)役所や町(村)役場、県庁が、国と協力して政策を実行したり救助活動を行ったりしている事例として、川口市(社会保障)、気仙沼市(復旧や復興)が取り上げられている。
- ・「グローバル化する世界と日本の役割」について、我が国の国際協力に関する事例として青年海外協力隊が取り上げられている。

5 教材や資料の選択に関すること

- 全ての学年において、地図や写真、図や表といった資料が示されている。資料と「学び方コーナー」が併せて示されているところがあり、資料の読み取り方等を確認することができるようになっている。
- 全ての学年において、専用サイトから資料や情報を得ることができる「Dマーク」が示されている。(QRコードとURLが掲載されている。)
- 全ての学年において、選択して取り上げることとされている内容が「どちらかを選んで学習しましょう。」として示されている。また、児童の実態に応じて扱うことが可能な「ひろげる」が示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総頁数・サイズ

	3年	4年	5年	6年
小学社会 A B判	172	213	251	275

(2) 単元別頁数

学年	単元名	頁	割合	学年	単元名	頁	割合
3年	わたしたちのまちと市	38	22%	6年	ともに生きる暮らしと政治	58	21%
	はたらく人とわたしたちの暮らし	50	29%		国づくりへの歩み	16	6%
	地いきの安全を守る	34	20%		大陸に学んだ国づくり	16	6%
	わたしたちの市の歩み	32	19%		武士の政治が始まる	10	4%
	その他	18	10%		室町文化と力をつける人々	8	3%
4年	県の地図を広げて	14	7%		全国統一への動き	14	5%
	健康な暮らしとまちづくり	56	26%		幕府政治と人々の暮らし	12	4%
	自然災害にそなえるまちづくり	34	16%		新しい文化と学問	16	6%
	地域で受けつがれてきたもの	16	8%		明治の新しい国づくり	14	5%
	昔から今へと続くまちづくり	30	14%		近代国家を目ざして	20	7%
	わたしたちの県のまちづくり	50	23%		戦争と人々の暮らし	16	6%
	その他	13	6%		平和で豊かな暮らしを目ざして	16	6%
5年	日本の国土とわたしたちの暮らし	52	21%		世界の中の日本	40	15%
	未来を支える食料生産	60	24%		その他	19	7%
	未来をつくり出す工業生産	52	21%				
	未来とつながる情報	32	13%				
	国土の自然とともに生きる	40	16%				
	その他	15	6%				

※その他は、目次、「社会科の学習の進め方」等の資料の頁数

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、用語・語句が「キーワード」として示されている。その他に「解説」として、説明とともに示されている用語・語句がある。
- 全ての学年において、巻末に用語・語句等が一覧で示されている。
- 全ての学年において、学習を進める上での技能を示した「学びのてびき」が設定され、第3学年においては、「わくわく社会科ガイド」が設定されている。

3 問題解決的な学習の充実に関すること

- 全ての学年において、「社会科の学習の進め方」があり、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という問題解決的な学習の流れが示されている。
- 全ての学年において、単元ごと、1時間ごとの問いの例が示されている。
- 全ての学年において、社会的事象の見方・考え方がキャラクターの吹き出しで示されている。
- 全ての学年において、社会への関わり方を選択・判断する「選択・判断」が設けられている。
- 全ての学年において、単元末に「まとめる」があり、言語活動の例が示されている。

4 学習指導要領で改善が図られた内容に関すること

○第3学年

- ・「市の様子の変り変わり」について、少子化、高齢化、人口増加、人口減少、国際化に関する記述がある。(事例地：横浜市)
- ・地図帳の使い方が示されている。

○第4学年

- ・「自然災害から人々を守る活動」について、地震・津波災害(静岡市)が取り上げられている。また、「せんたく」として、風水害(三条市)、火山災害(伊達市)、雪害(秋田市)が取り上げられている。
- ・「県内の特色ある地域の様子」における、国際交流に取り組んでいる地域の事例地として福岡市が取り上げられている。

○第5学年

- ・「領土の範囲」について、「日本の国土はどこまで？」において、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることが示されている。また、「未来を支える食料生産」、「平和で豊かな暮らしを旨として」(第6学年)「世界の中の日本」(第6学年)で、領土に関する課題が取り上げられている。
- ・「我が国の産業と情報との関わり」について、販売、観光が取り上げられている。また、「せんたく」として、医療、福祉、運輸が取り上げられている。

○第6学年

- ・「国や地方公共団体の政治」について、市(区)役所や町(村)役場、県庁が、国と協力して政策を実行したり救助活動を行ったりしている事例として、世田谷区(社会保障)、釜石市(復旧や復興)、札幌市(開発や活性化)が取り上げられている。
- ・「グローバル化する世界と日本の役割」について、我が国の国際協力に関する事例として中村哲、青年海外協力隊が取り上げられている。

5 教材や資料の選択に関すること

- 全ての学年において、地図や写真、図や表といった資料が示されている。資料と「学びのてびき」が併せて示されているところがあり、資料の読み取り方等を確認することができるようになっている。
- 全ての学年において、専用サイトから資料や情報を得ることができる「まなびリンク」が示されている。(QRコードとURLが掲載されている。)
- 全ての学年において、選択して取り上げることとされている内容が「せんたく」として示されている。また、児童の実態に応じて扱うことが可能な「ひろげる」が示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り込められている。

1 概括的な調査研究

(1) 総頁数・サイズ

	3年	4年	5年	6年
小学社会 AB判	157	195	279	269

(2) 単元別頁数

学年	単元名	頁	割合	学年	単元名	頁	割合
3年	わたしたちの住んでいるところ	34	22%	6年	わが国の政治のはたらき	44	16%
	わたしたちの暮らしとまちではたらく人々	48	31%		大昔の暮らしとくにの統一	16	6%
	安全な暮らしを守る	34	22%		天皇を中心とした政治	16	6%
	市のように暮らしのうつりかわり	32	20%		貴族が生み出した新しい政治	10	4%
	その他	9	6%		武士による政治のはじまり	12	4%
	わたしたちの県	16	8%		今に伝わる室町の文化と人々の暮らし	14	5%
4年	健康な暮らしを守る仕事	48	25%		戦国の世の統一	10	4%
	自然災害から人々を守る活動	34	17%		武士による政治の安定	12	4%
	暮らしのなかに伝わる願い	22	11%		江戸の社会と文化・学問	16	6%
	地いきの発てんにつくした人々	32	16%		明治の新しい国づくり	14	5%
	わたしたちの住んでいる県	36	18%		国力の充実をめざす日本と国際社会	20	7%
	その他	7	4%		アジア・太平洋に広がる戦争	16	6%
	5年	日本の国土と人々の暮らし	60		22%	新しい日本へのあゆみ	20
わたしたちの食生活を支える食料生産		66	24%		世界のなかの日本の役割	38	14%
工業生産とわたしたちの暮らし		56	20%		その他	11	4%
情報社会に生きるわたしたち		48	17%				
国土の環境を守る		44	16%				
その他		5	2%				

※その他は、目次、「この教科書の使い方」等の資料の頁数

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、用語・語句が「キーワード」「むずかしい言葉」として説明とともに示されている。
- 全ての学年において、巻末に用語・語句等が一覧で示されている。
- 全ての学年において、学習を進める上での技能を示した「学び方・調べ方コーナー」が示されている。

3 問題解決的な学習の充実に関すること

- 第3学年に、「社会科の学習へようこそ！」があり、「ぎもんを見つける」「調べる」「話し合う」「まとめる」「つたえる」という問題解決的な学習の流れが示されている。
- 全ての学年において、単元ごと、1時間ごとの問いの例が示されている。
- 全ての学年において、社会的事象の見方・考え方がキャラクターの吹き出しで示されている。
- 全ての学年において、社会への関わり方を選択・判断する学習につながる「さらに考えたい問題」が示されている。
- 全ての学年において、単元末に言語活動の例が示されている。

4 学習指導要領で改善が図られた内容に関すること

○第3学年

- ・「市の様子の移り変わり」について、少子化、高齢化、国際化に関する記述がある。(事例地：川越市)
- ・地図帳の使い方が示されている。

○第4学年

- ・「自然災害から人々を守る活動」について、風水害(東京都)が取り上げられている。また、「せんたく」として、地震災害(神戸市)、津波災害(和歌山県)、火山災害(宮崎県高原本町)、雪害(弘前市)が取り上げられている。
- ・「県内の特色ある地域の様子」における、国際交流に取り組んでいる地域の事例地として総社市が取り上げられている。

○第5学年

- ・「領土の範囲」について、「領土をめぐる問題」において、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることが示されている。また、「新しい日本への歩み」(第6学年)で領土に関する課題が取り上げられている。
- ・「我が国の産業と情報との関わり」について、販売が取り上げられている。また、「せんたく」として、観光、医療が取り上げられている。

○第6学年

- ・「国や地方公共団体の政治」について、市(区)役所や町(村)役場、県庁が、国と協力して政策を実行したり救助活動を行ったりしている事例として、足立区(社会保障)、広島市(復旧や復興)、水俣市(開発や活性化)が取り上げられている。
- ・「グローバル化する世界と日本の役割」について、我が国の国際協力に関する事例として青年海外協力隊が取り上げられている。

5 教材や資料の選択に関すること

- 全ての学年において、地図や写真、図や表といった資料が配置されている。資料と「学び方・調べ方コーナー」が併せて示されているところがあり、資料の読み取り方等を確認することができるようになっている。
- 全ての学年において、専用サイトから資料や情報を得ることができる。「デジタルマーク」が示されている。(URLが掲載されている。)
- 全ての学年において、選択して取り上げることとされている内容が「せんたく」として示されている。また、児童の実態に応じて扱うことが可能な「わたしたちの学びを生かそう」が示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り込められている。

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

地 図

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	地図 301
46 帝国	地図 302

7

地 図

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 46 帝国

2 調査研究の観点

- (1) 様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることができる内容であるか。
 - (2) 地域や我が国の国土に関する地図や資料が適切に取り上げられているか。
 - (3) 地図や資料の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
 - (4) 写真、挿絵、統計資料、地図等の表記や表現が適切であり、資料が活用されやすいよう配慮されているか。
- ### 3 調査研究に対する基本的な考え方
- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
 - (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
 - (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
 - (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

- 1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。
- 2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。
- 3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。
 - (1) 概括的な調査研究…………… 観点 (3) (4)
 - ① 一般図の数
 - ② 主題図の数
 - ③ 内容の配列と頁数
 - (2) 全体的な表記・表現に関する事…………… 観点(4)
 - (3) 地図への興味・関心に関する事…………… 観点(2)
 - (4) 情報を適切に調べまとめる技能に関する事…………… 観点(1)
 - (5) 歴史的分野や公民的分野との関連について…………… 観点(3)
 - (6) 山梨県に関する地図や資料について…………… 観点(2)

1 概括的な調査研究

(1) 一般図の数 (巻頭・巻末資料等を含む)

地域	全体図	拡大図	写真	絵地図	模式図
世界全図	1	0	0	1	0
世界と地球儀	2	0	8	0	0
アジア州	1	0	0	0	0
ヨーロッパ州	1	0	8	0	0
アフリカ州	1	0	4	0	3
北アメリカ州	0	0	0	0	0
南アメリカ州	0	0	0	0	0
複数の州	4	0	2	0	0
日本全図	2	4	5	1	0
日本の領土と周囲	1	0	4	0	1
北海道地方	1	2	0	0	0
東北地方	1	1	0	0	0
関東地方	1	3	2	1	1
中部地方	1	4	0	0	0
近畿地方	1	4	3	0	0
中国地方	1	1	1	0	0
四国地方	1	0	0	0	0
九州地方	1	5	3	0	0
複数の地方	0	0	0	0	0

(2) 主題図の数 (巻頭・巻末資料等を含む)

主題	地図	表・グラフ	写真	模式図	絵地図等
地形	1	0	0	1	0
気候	1	4	0	0	0
自然災害と防災	2	0	7	0	1
農水産業	2	0	1	0	0
工業	1	0	0	0	0
世界との結び付き	1	3	1	0	0
歴史・文化	8	2	21	0	0
その他	0	2	2	0	0

(3) 内容の配列と頁数 (巻頭・巻末資料等を含む)

内容の配列	頁数
導入・使い方のページ	8
日本の一般図のページ	43
世界の一般図のページ	20
主題図のページ	17
統計のページ	4
さくいんのページ	10
総ページ数	102

2 全体的な表記・表現に関すること

- A 4 判。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 地名は全ての漢字に、その他の文章等は3年生配当以上の漢字にルビが付けられている。

3 地図への興味・関心に関すること

- 巻頭の世界全図・日本全図では国名ではなく、その地域の特色を表すイラストが掲載されている。
- 日本の一般図で、特徴的な産物や建築物等のイラストが掲載されている。
- 東京都の拡大図で、2020年東京オリンピック・パラリンピックの主な会場予定地と競技名が記載されている。また、「世界のおもな国の統計」で、「オリンピックの開催地」と「今までにサッカーのワールドカップが開かれた国」を表した地図が掲載されている。
- 世界の一般図で、特徴的な事項（名所・人物・動物・音楽・文学・料理等）について、イラストや写真が掲載されている。
- 世界の一般図で、国名の英語表記が掲載されている。
- 主題図「日本の産業」で、主な農水産物や工業製品のイラストや写真が掲載されている。
- 主題図「くらべてみよう日本と世界」で、日本と世界の主な山・川・湖・島・高い建物がイラストやグラフで比較して示されている。

4 情報を適切に調べまとめる技能に関すること

- 「地図帳の使い方」で、土地の高さ（等高線）・地図記号・方位・縮尺・さくいんの使い方について示されている。
- 「日本とそのまわり」や日本の一般図で、国土の範囲を表す地図とともに、領域に関する模式図のほか、日本固有の領土および東西南北端の写真と解説が掲載されている。
- 日本の一般図で、日本全図が小さく掲載され、日本全体の中での位置が示されている。
- 世界の一般図で、各国の料理や動物等の写真が掲載されている。
- 世界の一般図で、同じ緯度、同じ縮尺の日本が示されている。
- 主題図「日本の貿易」で、主な国の貿易額と輸出入の割合が円グラフで示されている。
- 主題図「くらべてみよう日本と世界」で日本各地の気温と降水量の一覧表が示されている。
- 「世界のおもな国の統計」で、南北を逆にした世界全図が掲載されている。
- 主題図「日本の自然災害」で、自然災害の写真や図、大きな被害をもたらした台風の進路等を示した図が示されている。
- クイズや動画等を使用することができる「Dマークコンテンツ」が設定されている。
- キャラクターの吹き出しで、クイズや学習課題が示されている。

5 歴史的分野や公民的分野との関連について

- 日本の一般図で、歴史地名・事項が青色で記載されている。
- 京都市・奈良市・斑鳩町の拡大図があり、歴史的建築物のイラストや写真が示されている。
- 主題図「日本の歴史と文化」で、日本にある世界遺産の写真が掲載されている。また、「むかしの国」や歴史的な名所・各地の祭り等が示されている。
- 主題図「日本の歴史」で、歴史年表が示され、その出来事に対応するページが示されている。
- 遣唐使の行路や20世紀前半の世界の歴史地図等が掲載されている。
- 「明治初期に確定した日本の領土」「第二次世界大戦後の日本の領域」が掲載されている。

6 山梨県に関する地図や資料について

- 開通予定のリニア中央新幹線（東京一名古屋）や中部横断自動車道が記載されている。
- 主題図「日本の産業」の中の「土地の利用とおもな農産物」で、甲府盆地が記載され、「ぶどう」「もも」のイラストが示されている。
- 「信仰の対象と芸術の源泉」として、「富士山」の写真が掲載されている。
- 「日本の都道府県の統計」で、「おもな伝統工芸品」では「甲州水晶貴石細工」「甲州印伝」「甲州手彫印章」が記載され、「おもな郷土料理・農水産物」では「ぶどう」「もも」「すもも」「ワイン」「ほうとう」「吉田のうどん」が記載されている。

1 概括的な調査研究

(1) 一般図の数 (巻頭・巻末資料等を含む)

地域	全体図	拡大図	写真	絵地図	模式図
世界全図	2	0	0	0	0
世界と地球儀	4	0	4	0	0
アジア州	1	0	2	0	0
ヨーロッパ州	1	0	3	0	0
アフリカ州	0	0	0	0	0
北アメリカ州	1	0	3	0	0
南アメリカ州	0	0	0	0	0
複数の州	3	0	6	0	0
日本全図	2	0	0	0	0
日本の領土と周囲	1	0	7	0	1
北海道地方	2	5	0	1	0
東北地方	2	2	0	0	0
関東地方	1	5	0	0	0
中部地方	1	3	0	1	0
近畿地方	1	6	2	0	0
中国地方	1	2	0	1	0
四国地方	1	0	0	0	0
九州地方	2	11	0	1	1
複数の地方	2	0	0	0	0

(2) 主題図の数 (巻頭・巻末資料等を含む)

主題	地図	表・グラフ	写真	模式図	絵地図等
地形	1	2	0	1	1
気候	4	6	0	2	0
自然災害と防災	5	1	7	2	2
農水産業	2	2	2	1	0
工業	2	4	3	0	0
世界との結び付き	3	6	1	0	0
歴史・文化	1	1	18	0	1
その他	1	0	0	0	0

(3) 内容の配列と頁数 (巻頭・巻末資料等を含む)

内容の配列	頁数
導入・使い方のページ	12
日本の一般図のページ	57
世界の一般図のページ	20
主題図のページ	19
統計のページ	3
さくいんのページ	9
総ページ数	120

2 全体的な表記・表現に関すること

- A4判。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 全ての漢字にルビが付けられている。

3 地図への興味・関心に関すること

- 巻頭の世界全図で、国名の英語表記が掲載されている。
- 日本の一般図で、特徴的な産物や建築物等のイラストが掲載されている。
- 東京都の拡大図で、建築物や大使館(各国の国旗)のイラストや東京2020オリンピック・パラリンピックの主な会場予定地や競技名が掲載されている。
- 世界の一般図で、特徴的な事項(名所・人物・動物・音楽・文学・料理等)について、イラストや写真が掲載されている。
- 主題図「日本の産業のようす」で、主な農水産物や工業製品のイラストや写真が掲載されている。
- 主題図「日本の歴史と世界文化遺産」で、歴史上の人物や建築物のイラストや写真が掲載されている。
- 主題図「日本の自然のようす」で、世界や日本の主な山・川・湖がイラストやグラフで比較して示されている。

4 情報を適切に調べまとめる技能に関すること

- 「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」で、方位・土地の高さ(等高線、断面図)・地図記号・距離と縮尺・さくいんの使い方について示されている。
- 「日本の領土とそのまわり」で、国土の範囲を表す地図とともに、領域に関する模式図のほか、日本固有の領土および東西南北端の写真と解説が掲載されている。
- 日本の一般図で、日本全図が小さく掲載され、日本全体の中での位置が示されている。
- 世界の一般図で、球体世界地図が小さく掲載され、世界全体の中での位置が示されている。
- 世界の一般図で、同じ緯度、同じ縮尺の日本が示されている。
- 主題図「日本と世界の結びつき」で、日本の食料自給率が帯グラフで示されている。
- 「日本の統計」で、「おもな農産物の生産」「おもな工業の生産額」「日本の農水産物の輸入先」が帯グラフで掲載されている。
- 主題図「日本の自然災害と防災」で、分布図、模式図、写真が掲載されている。
- 都道府県ごとの地図、ドローンで撮影された動画、クイズ、統計等を使用することができる「二次元コードコンテンツ」が設定されている。
- 「地図マスターへの道」で、「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」等に関する問題が、計31か所、全80問掲載されている。
- 主題図等で、「トライ!」が設けられ、学習課題が示されている。

5 歴史的分野や公民的分野との関連について

- 日本の一般図で、歴史地名・事項が青色で、世界遺産名が緑色で記載されている。
- 京都盆地と奈良盆地の拡大図があり、歴史的建築物のイラストが掲載されている。
- アジア州の地図で、700年頃の交易ルートやペリーの航路が記載されている。
- 日本の歴史年表が示され、その出来事に対応するページが記載されている。
- 世界文化遺産の写真、鎌倉の絵地図が掲載されている。
- 「日本の昔の境界」や「昔の国名」を表した歴史地図が掲載されている。

6 山梨県に関する地図や資料について

- 開通予定のリニア中央新幹線(東京一名古屋)や中部横断自動車道が記載されている。
- 主題図「日本の産業のようす」で、「ぶどう」「もも」のイラストが掲載され、「地域による農業生産の違い」を表す帯グラフでは山梨県のデータが掲載されている。
- 主題図「日本の歴史と世界文化遺産」で、「富士山」の写真が掲載されている。
- 「都道府県別の統計」で、「ふるさと自慢」では「ぶどう」「もも」「ほうとう」「富士山」が記載され、「主な伝統工芸品」では「甲州水晶貴石細工」「西島手漉和紙」が記載されている。

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

算 数

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	算数 101・102・201・202・301・302 ・401・402・501・502・601
4 大日本	算数 103・203・303・403・503・603
11 学図	算数 104・105・204・205・304・305 ・404・405・504・505・604・605
17 教出	算数 106・206・207・306・307・406 ・407・506・606
61 啓林館	算数 108・208・209・308・309・408 ・409・508・608
116 日文	算数 110・111・210・211・310・311 ・410・411・510・511・610

算 数

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 4 大日本 11 学図 17 教出 61 啓林館 116 日文

2 調査研究の観点

- (1) 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 心身の発達段階に適応した数学的活動を行うことができるよう配慮されており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 各領域の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 用語、式、図、表、グラフ等の表記や表現が適切であり、学習内容の理解や問題の解決に役立つよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)(4)
 - ① 総ページ数
 - ② 領域別のページ構成
 - ③ 数学的な表現に関わる内容、補充的・発展的な内容
 - ④ デジタルコンテンツを使って学習できる箇所
 - ⑤ プログラミング教育に関わる箇所
- (2) 数学的活動に関すること…………… 観点(1)(2)
 - ① 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について
 - ② 数学的な見方・考え方の取り上げ方について
- (3) 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること…………… 観点(2)
- (4) 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること…………… 観点(3)
- (5) 表記や表現に関すること…………… 観点(4)
 - ① 式、図、言葉等の数学的な表現について
 - ② ユニバーサルデザインに関する配慮について

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	44	137	159	159	157	281	
下巻	129	121	139	163	153		
合計	173	258	298	322	310	281	1642

※1年については, ①巻を上巻, ②巻を下巻として記載している。

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	119	80%	9	6%	17	12%	3	2%	148
2年	135	70%	19	10%	36	18%	4	2%	194
3年	147	66%	29	13%	30	14%	15	7%	221

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C変化と関係		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	138	59%	74	32%	7	3%	15	6%	234
5年	79	34%	85	36%	52	22%	18	8%	234
6年	57	28%	62	30%	51	25%	34	17%	204

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数, 式, 図, 表, グラフ等を用いて考えを説明している場面), 補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	42	47	62	63	68	64
補充的・発展的な内容	14	40	53	68	67	64

(4) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ につながるマーク	9	9	15	19	21	12	85

※巻頭にQRコードがある。

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	0	0	0	0	2	2	4

2 数学的活動に関すること

(1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の上巻の巻頭の「学びのとびら」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 第2学年以上の「今日の深い学び」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

(2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上では、数学的な見方・考え方を働かせている箇所がマークで示されている。
- 第2学年以上では、まとめの記述に加えて、マークで示された数学的な見方・考え方を既習事項と関連付けた記述が示されている。
- 第2学年以上の単元末の「つないでいこう算数の目」では、当該の単元で、数学的な見方・考え方を働かせている場面についての振り返りが設定されている。

3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第1学年の「さんすうのうとをつくろう」、第2学年以上の「算数マイノートを学習に生かそう」において、ノートの記述の仕方が示されている。
- 単元末の「いかしてみよう」、第2学年以上巻末の「おもしろ問題にチャレンジ」では、学習したことを日常場面に活用する問題が設定されている。第4学年以上の「算数で読みとこう」では、日常の事例のデータが示され、学習したことを活用する問題が設定されている。
- 第3学年以上では、他教科との関連がある学習場面に、マークとともに関連する教科名が示されている。

4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 巻末の「新しい算数プラス」、単元末の「おぼえているかな」では、補充的・発展的な学習の問題が掲載されている。
- 巻末の「ふりかえりコーナー」では、当該学年までの既習内容が示されている。
- 単元末の「たしかめよう」では、欄外に問題のめあてや問題に対応したページ番号・問題番号が示されている。
- 第1学年の最初の2単元は、別冊A4判で中綴じになっており、教科書に直接書き込む構成になっている。
- 第6学年の「算数のしあげ」では、学習内容の領域ごとの振り返りが設定されている。
- 第6学年の巻末の「算数卒業旅行」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。また、各単元で中学校数学に関わる箇所に、「中学の芽」マークが示されている。

5 表記や表現に関すること

(1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に提示されている。
- 第4学年以上の上巻または下巻の巻末に「数直線の図を使って考えよう」が掲載されている。
- 「今日の深い学び」「算数マイノートを学習に生かそう」では、式、図、言葉等の数学的な表現を使って考えを表すことが示されている。

(2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	177	243	263	287	289	269	
下巻							
合計	177	243	263	287	289	269	1528

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	115	79%	10	7%	17	11%	4	3%	146
2年	125	67%	17	9%	37	20%	7	4%	186
3年	141	67%	25	12%	28	13%	16	8%	210

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C変化と関係		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	132	57%	72	31%	9	4%	18	8%	231
5年	74	34%	81	38%	45	21%	15	7%	215
6年	57	32%	54	30%	37	21%	31	17%	179

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数, 式, 図, 表, グラフ等を用いて考えを説明している場面), 補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	32	36	34	42	43	30
補充的・発展的な内容	13	46	48	52	65	89

(4) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ につながるマーク	3	18	13	15	11	7	67

※巻頭にQRコードがある。

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	1	1	1	1	2	2	8

2 数学的活動に関すること

(1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻頭の「算数まなびナビ」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 「じっくり学び合おう」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

(2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上の巻末に、数学的な見方・考え方をメモするページとして、「ひらめきアイテム集」が設定されている。
- 「ひらめきアイテム集」でメモした数学的な見方・考え方を働かせる場面には、マークが示されている。

3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第1学年の「ノートにまとめよう」、第2学年以上の「学びナビ」の「ノートの書き方」において、ノートの記述の仕方が示されている。
- 単元末の「算数たまたげこ」、第1学年から第3学年の「おうちで算数」、第3学年から第6学年の「ふくろう先生のなるほど算数教室」では、学習したことを日常生活に活用する問題が設定されている。
- 第4学年以上の「読み取る力をのぼそう」では、日常の事例のデータが示され、学習したことを活用する問題が設定されている。
- 第3学年以上では、他教科との関連がある学習場面に、「他教科リンクマーク」とともに関連する教科名が示されている。

4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 巻末の「プラス・ワン」や単元末の「たしかめ問題」には、補充的・発展的な問題が掲載されている。
- 第2学年以上の巻末の「ひと目でわかる〇年のまとめ」では、当該学年までの既習内容が示されている。
- 単元末の「たしかめ問題」では、欄外に問題に対応したページ番号・問題番号が示されている。
- 第1学年の巻頭の「さんすうのまなびかた」では、生活習慣や学び方に関わる記述がある。
- 第5, 6学年の巻末の「中学校の数学ではこんなことを学ぼう」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。
- 第5, 6学年では、単元の中で中学校数学に関わる箇所に「中学校の数学ではこんなことを学ぼう」のマークが示されている。

5 表記や表現に関すること

(1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に提示されている。
- 第4学年以上の巻末に、「数直線のかき方」が掲載されている。
- 「じっくり深く学び合おう」では、式、図、言葉等の数学的な表現を使って考えを表すことが示されている。

(2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	106	145	141	162	162	245	
下巻	90	142	158	161	169		
別冊						48 (中巻の別冊)	
合計	196	287	299	323	331	293	1729

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	123	82%	9	6%	14	9%	4	3%	150
2年	143	64%	24	10%	49	22%	9	4%	225
3年	145	62%	33	14%	39	16%	18	8%	235

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	141	55%	80	31%	10	4%	26	10%	257
5年	85	35%	92	37%	53	22%	15	6%	245
6年	56	31%	60	33%	34	18%	34	18%	184

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数, 式, 図, 表, グラフ等を用いて考えを説明している場面), 補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	43	44	49	40	61	39
補充的・発展的な内容	27	35	44	47	51	71

(4) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
QRコード	3	6	7	6	4	7	33

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	2	2	2	2	2	2	12

2 数学的活動に関すること

(1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上では、問題解決の過程に関わって、上巻の巻頭に「3つの学びの力」「3つの学び方」が示されている。
- 「かつどう!!」「アクティブ!!」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。
- 「ふりかえろう つなげよう」では、既習内容を振り返る場面が設定されており、子供のキャラクターの吹き出しや板書を用いて振り返りの流れが示されている。

(2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上の上巻の巻頭の「算数で見つきたい考え方」では、数学的な見方・考え方がキャラクターに対応して示されている。
- 数学的な見方・考え方を働かせている箇所には、キャラクターが示されている。
- 「○年生で見つけた考え方」として、前学年で扱った数学的な見方・考え方について、第2学年以上の上巻の巻頭に示されている。

3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験が挙げられ、問題発見の場面がイラストで示されており、子供のキャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第2学年以上の「考えるノート」と「まとめるノート」において、ノートの記述の仕方が示されている。
- 第2学年以上の「深めよう 生活にいかそう」において、学習したことを日常生活に活用する問題が設定されている。
- 学年末の「今の自分を知ろう!」では、学習したことを日常生活に活用する問題を通して、自己評価を行う活動が設定されている。

4 他学年や他領域との関連に関わること・自主的な学習を促す内容に関すること

- 巻末の「ほじゅう問題」、2年生以上の単元末の「まなびをいかそう」では、補足的・発展的な問題が掲載されている。
- 単元末の「できるようになったこと」では、欄外に関連する「ほじゅう問題」のページ番号が示されている。
- 単元末の「まなびをいかそう」では、欄外に問題のめあてが示されている。
- 6年別冊の「算数で見つけた考え方」では、小学校で示された数学的な見方・考え方についてキャラクターを用いて振り返る活動が設定されている。
- 6年別冊の「中学校へのかけ橋」では、中学校数学の一部に触れた内容について示され、これまでに示されてきた数学的な見方・考え方について、キャラクターごとに振り返る活動が設定されている。

5 表記や表現に関すること

(1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に提示されている。
- 第4学年以上では、「4マス関係表が分かりやすいね」が掲載されている。
- 「ふりかえろう つなげよう」では、式、図、言葉等の数学的な表現を使って考えを表すことが示されている。

(2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	179	149	156	178	308	274	
下巻		130	142	168			
合計	179	279	298	346	308	274	1684

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	123	82%	9	6%	14	9%	4	3%	150
2年	134	67%	22	11%	38	19%	5	3%	199
3年	141	64%	28	13%	35	16%	17	7%	221

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C変化と関係		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	132	53%	74	30%	16	6%	26	11%	248
5年	71	32%	88	39%	53	24%	12	5%	224
6年	55	30%	60	32%	38	21%	32	17%	185

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数, 式, 図, 表, グラフ等を用いて考えを説明している場面), 補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	28	27	39	39	40	22
補充的・発展的な内容	12	53	62	84	67	94

(4) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ につながるマーク	6	13	16	16	14	11	76

※巻頭にQRコードがある。

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	0	0	0	0	2	0	2

2 数学的活動に関すること

(1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の上巻の巻頭の「学習の進め方」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 第2学年以上では、それぞれの学年の最初の単元の前に「算数が好きになる はじめの一步」が設けられており、「学習の進め方」で示された学習過程についての事例が掲載されている。
- 単元内の板書のイラストを提示している箇所では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。
- 問題解決の場面では、「はてな」「なるほど」「だったら」という学習の過程がマークにより示されている。

(2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上の上巻の巻頭に「算数で使いたい考え方」、第3学年以上の上巻の巻末に「算数のミカタ」が設定されており、前学年までに示されてきた数学的な見方・考え方についての記述が示されている。
- 単元末の「ふり返ろう」では、数学的な見方・考え方に関連した4コマ漫画が示されている。

3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験、既習内容が挙げられ、問題発見の場面がイラストや写真で示されている。子供のキャラクターのセリフを通して問題が提示されている。
- 巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第2学年以上の「友だちのノートを見てみよう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 単元末の「学んだことを使おう」、学年末の「算数を使って考えよう」では、学習したことを日常場面に活用する問題が設定されている。

4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第2学年以上の上巻の巻末の「自分で取り組むページ」「ステップアップ算数」では、補充的・発展的な問題が掲載されている。
- 単元末の「学びのマップ」内の「〇年までに学習してきたこと」では、前学年の学習と該当学年の学習のつながりが単元名で示されている。
- 第2学年以上の上巻の巻末の「学びの手引き」では、これまで学習した数学的な見方・考え方が示された「算数のミカタ」や、数直線のかき方、ものさし・コンパス・分度器の使い方が示された作図方法が掲載されている。
- 単元末の「まとめ」では、対応するページ番号と問題番号が欄外に示されている。
- 第6学年の上巻の巻末の「開け！算数ワールド」では算数と中学校数学とのつながりが示されている。
- 第2学年以上では、欄外に「センスアップ」「算数メモ」等の発展的な問題が掲載されている。

5 表記や表現に関すること

(1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に提示されている。
- 第2学年下巻から「テープ図のかき方」「数直線のかき方」が巻末に掲載されている。
- 「友だちのノートを見てみよう」では、式、図、言葉等の数学的な表現を使って考えを表すことが示されている。

(2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	176	148	157	171	301	297	
下巻		143	139	142			
合計	176	291	296	313	301	297	1674

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	115	85%	6	4%	13	10%	2	1%	136
2年	133	66%	24	12%	38	19%	6	3%	201
3年	131	67%	23	12%	25	13%	16	8%	195

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C変化と関係		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	111	52%	66	31%	14	7%	22	10%	213
5年	78	38%	70	35%	44	22%	10	5%	202
6年	50	27%	58	32%	46	25%	30	16%	184

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数, 式, 図, 表, グラフ等を用いて考えを説明している場面), 補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	32	53	42	59	71	40
補充的・発展的な内容	23	68	77	81	92	97

(4) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
QRコード	32	78	62	67	67	63	369

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	0	0	0	0	3	3	6

2 数学的活動に関すること

(1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の上巻の巻頭の「学習の進め方」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 第2学年以上の上巻の巻頭の「わくわく算数学習」では、前ページの「学習の進め方」で示された学習過程についての事例が掲載されている。
- 第2学年以上の上巻の巻末の「算数資料集」内の「わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

(2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第4学年以上の上巻の巻末の「算数資料集」内の「算数でよく使う考え方」では、数学的な見方・考え方が示されている。

3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験が挙げられ、問題発見の場面がイラストで示されている。子供のキャラクターの会話を通して課題が提示されている。
- 巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第2学年以上の「わくわく算数ノート」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 学期末の「わくわく算数ひろば」では、学習したことを日常場面に活用する問題が設定されている。
- 第6学年の「ひろがる算数」では、算数・数学を日常場面に活用する場面が示されている。

4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第2学年以上の上巻の巻末の「じゅんぴ」、「もっと練習」では、補充的・発展的な問題が掲載されている。
- 単元末の「算数資料集」内の「〇年のまとめ」では、当該学年の学習内容が示されている。
- 単元末の「学びのまとめ」では、問題のめあてや対応するページ番号が欄外に示されている。
- 第2学年以上の上巻の巻末の「じゅんぴ」では、問題に対応する当該学年の単元名が欄外に示されている。単元内の欄外に、関連する補充問題に該当する「もっと練習」のページ番号が示されている。
- 第1学年最初の単元の「かずとすうじ」は、教科書に直接書き込む構成になっており、他のページに比べ厚い紙が使用されている。
- 単元末の「学びのまとめ」内の「ふりかえろう」では、中学校数学に関連する箇所に「数学へのとびら」マークが付けられている。
- 単元内の「算数資料集」に記述されている内容に関わる箇所には、マークとともに該当するページ番号が示されている。

5 表記や表現に関すること

(1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に提示されている。
- 第2学年上巻以上の上巻の巻末に、「図のかき方」または「数直線のかき方」が掲載されている。
- 「わくわく算数ノート」のページでは、ノートに式、図、言葉等の数学的な表現を使って考えを表すことが示されている。

(2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	102	150	160	159	148	281	
下巻	93	131	134	164	166		
合計	195	281	294	323	314	281	1688

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容, 巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	115	82%	9	6%	13	9%	4	3%	141
2年	124	70%	20	11%	30	17%	3	2%	177
3年	127	65%	25	13%	26	13%	17	9%	195

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C変化と関係		Dデータの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	125	57%	66	30%	10	4%	19	9%	220
5年	72	34%	85	39%	46	21%	12	6%	215
6年	48	27%	55	32%	37	21%	35	20%	175

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数, 式, 図, 表, グラフ等を用いて考えを説明している場面), 補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	27	28	34	40	39	30
補充的・発展的な内容	10	62	60	73	73	92

(4) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ につながるマーク	6	13	6	4	5	5	39

※巻頭にURLを表示している。

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	0	0	0	0	5	0	5

2 数学的活動に関すること

(1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻末に「学び方ガイド」という取り外し可能なシートがあり、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 「自分で みんなで」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

(2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上の巻末に、「算数で使いたい言葉、考え方」という取り外し可能なシートがあり、数学的な見方・考え方が示されている。
- 第2学年以上では、「自分で みんなで」と示された箇所のうち1つが折り込みページとなっており、数学的な見方・考え方が示されている。

3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されたり、学習に関連した活動が設定されたりしている。子供のキャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 「算数ノートをつくらう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 単元末の「Hello!Math」、第2学年以上の「つなげる算数」では、学習したことを日常場面に活用する問題が設定されている。
- 第2学年以上の「算数アドベンチャー」、「算数マイトライ」では、他教科や複数の単元を横断した問題が設定されている。

4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 巻末の「算数マイトライ しっかりチェック、ぐっとチャレンジ、もっとジャンプ」には、補充的・発展的な問題が掲載されている。
- 単元末の「〇年上・下までに学習してきたこと」では、当該学年の学習内容が示されている。
- 単元の学習が始まる前に、既習事項に関わる問題「次の学習のために」が設定されている。
- 単元末の「たしかめポイント」には、欄外に問題のめあてや対応したページ番号が示されている。
- 第1学年の巻頭には、保育園や幼稚園の様子を表したイラストのページが設定されている。
- 第6学年の巻末の「マテマランドを探検しよう」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。
- 第6学年の巻末の「もうすぐ中学生」では、中学校数学の一部に触れた内容が示されている。

5 表記や表現に関すること

(1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に提示されている。
- 第3学年以上の下巻の巻末に、「いろいろな表し方をつなげよう」「数直線を使って表そう」等が掲載されている。
- 「自分で みんなで」「算数ノートをつくらう」では、式、図、言葉等の数学的な表現を使って考えを表すことが示されている。

(2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。

72

1

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

理 科

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	理科 301・401・501・601
4 大日本	理科 302・402・502・602
11 学図	理科 303・403・503・603
17 教出	理科 304・404・504・604
26 信教	理科 305・405・505・605
61 啓林館	理科 306・406・506・606

理 科

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 4 大日本 11 学図 17 教出 26 信教 61 啓林館

2 調査研究の観点

- (1) 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 安全に観察、実験を行うことができるよう配慮されており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「A物質・エネルギー」と「B生命・地球」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 挿絵、写真、図表等の内容が適切であり、学習内容の理解や問題の解決に役立つよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究 観点(1)(2)(4)
 - ① 領域別の構成
 - ② 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成
 - ③ デジタルコンテンツを使って学習できる箇所
 - ④ プログラミング教育に関わる頁数
- (2) 主体的に追究する活動に関すること 観点(1)
- (3) 観察・実験に関わる内容について 観点(2)
- (4) 学習の系統性と発展的な内容について 観点(3)
- (5) 全体的な表記・表現について 観点(4)

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	3年			4年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	6	65	37 %	5	68	32 %
B 生命・地球	5	84	48 %	10	111	52 %
共 通	—	27	15 %	—	33	16 %
合 計	11	176	100 %	15	212	100 %

領域等	5年			6年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	3	51	28 %	4	74	33 %
B 生命・地球	7	100	56 %	7	111	50 %
共 通	—	29	16 %	—	35	17 %
合 計	10	180	100 %	11	220	100 %

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成

			3年	4年	5年	6年
観察・実験の数	A 物質・エネルギー	観察	—	—	—	—
		実験	13	12	9	15
	B 生命・地球	観察	17	19	9	5
		実験	2	2	7	8
ものづくりの数	A 物質・エネルギー	5	—	2	3	
	B 生命・地球	—	—	—	—	
発展的な内容を示すマークの数	A 物質・エネルギー	2	1	3	1	
	B 生命・地球	—	3	2	5	

※ものづくりの数は、学習したことを生かして行うものづくりの数。

(3) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

		3年	4年	5年	6年
デジタルコンテンツにつながるマーク	A 物質・エネルギー	3	2	2	2
	B 生命・地球	8	10	8	8
	共 通	2	2	2	1

※巻末に一覧表とともにQRコードを表示。教科書内はマーク有。

(4) プログラミング教育に関わる頁数

	3年	4年	5年	6年
プログラミングに関する学習活動が扱われている頁数	—	—	—	5

2 主体的に追究する活動に関すること

- 単元の導入には「レッツスタート」が設定され、見開きで自然の事物・現象が示されている。
- 問題解決の過程が統一された言葉で示され、「まとめ」の後に「学びを生かして深めよう」が設定されている。
- 単元末の「たしかめよう」には「わかったかな・できたかな」と「考えよう」という問題が示されている。
- 「いろいろな角度から考えたり、いろいろなことに注目したり」する「理科のミカタ」が設定されている。
- 各学年で主に育成を目指す問題解決の力と対応する場面に「レベルアップ理科の力」が示されている。
- 第5、6学年では、単元の導入と単元末で同じ問いについて考える「学ぶ前の私」「学んだ後の私」が設定されている。

3 観察・実験に関わる内容について

- 観察や実験の手順が、文章だけでなく図や写真で示されており、用意するものにはチェックする欄が設けられている。
- 実験器具の使い方や話合いの仕方、ノートの書き方等が、巻末に示されている。
- 観察、実験の際の安全に関して注意を促す場面には、赤字で「きけん」と示されている。
- 観察、実験のページと結果のページが、見開きにならないように構成されている。
- 第6学年の「電気と私たちの暮らし」では、プログラミングの活動が示されており、デジタルコンテンツを利用した学習につながるQRコードも示されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 導入や問題をつかむ場面、予想する場面などに「学んだことを使おう」が設定されている。
- 全ての学年において、「算数科で学んだことを活用しよう」が設定されている。
- 第4学年以上に、関連する内容を系統立てて取り上げた「学びをつなごう」が設定されている。
- 「A 物質・エネルギー」のいくつかの単元で「ものづくり」が取り入れられている。
- 「もっと調べてみたいときにチャレンジ」する「はってん」が示されており、中学校理科の内容には「中学〇年で学ぶこと」と記載されている。

5 全体的な表記・表現について

- 全ての学年が、A4判、合冊（学年1冊）で構成されている。
- 生物、地学教材は、季節に合わせて配列されている。
- 全ての学年に、取り外して使うことができる巻末資料が設定されている。
- 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、QRコードと一覧が巻末に示されている。該当する箇所には「Dマーク」が示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	3年			4年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	6	90	47 %	5	80	36 %
B 生命・地球	6	82	43 %	6	116	52 %
共 通	—	20	10 %	—	26	12 %
合 計	12	192	100 %	11	222	100 %

領域等	5年			6年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	3	52	27 %	4	74	34 %
B 生命・地球	7	110	58 %	7	116	52 %
共 通	—	28	15 %	—	32	15 %
合 計	10	190	100 %	11	222	101 %

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成

			3年	4年	5年	6年
観察・実験の数	A 物質・エネルギー	観察	—	—	—	—
		実験	15	14	7	9
	B 生命・地球	観察	13	24	4	2
		実験	0	3	5	10
ものづくりの数	A 物質・エネルギー	11	3	3	1	
	B 生命・地球	1	—	—	—	
発展的な内容を示すマークの数	A 物質・エネルギー	7	4	3	3	
	B 生命・地球	—	7	3	9	

※ものづくりの数は、学習したことを生かして行うものづくりの数。

(3) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

			3年	4年	5年	6年
デジタルコンテンツにつながるマーク	A 物質・エネルギー	—	—	1	—	
	B 生命・地球	—	—	—	—	
	共 通	4	4	7	6	

※巻頭にQRコードを表示。教科書内はマーク有。

(4) プログラミング教育に関わる頁数

	3年	4年	5年	6年
プログラミングに関する学習活動が扱われている頁数	—	—	—	4

2 主体的に追究する活動に関すること

- 単元の導入は見開きで自然の事物・現象が示され、ページ右上に「問題を見つける」と示されている。
- 問題解決の過程が統一された言葉で示され、「〇年の学習で特に大切なところ」の過程には星マークが付けられている。
- 単元末には、「学んだことを生かそう」等の問題が示されている。
- キャラクターの吹き出しに「この場面で、どこに注目したらよいかのヒント」が示されている。
- 「問題を見つけよう（見つける）」が、単元の導入だけでなく、単元の途中で再設定されている単元がある。
- 「考察」には、「結果からいえることを話し合しましょう」という言葉が併記されている。

3 観察・実験に関わる内容について

- 観察や実験の手順が、文章だけでなく図や写真で示されている。
- 巻頭に話合いの仕方が、巻末に実験器具の使い方やノートの書き方等が示されている。
- 観察、実験の際の安全に関して注意を促す場面には、赤いマークの「注意」が、「観察・実験などをするとき、気をつけよう」という場面には、青いマークの「ポイント」が示されている。
- 観察、実験のページと結果のページが見開きにならないように構成されている。
- 第6学年の「私たちの生活と電気」では、プログラミングの活動が示されており、デジタルコンテンツを利用した学習につながるQRコードも示されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 第3学年では「生活科とのつながり」、第4学年以上には「〇年で学んだこと」が設定され、他教科を含む既習の内容や日常の関連する場面が示されている。
- 「サイエンスワールド」が設定されている単元があり、自然事象や職業、上位学年や中学校での学習内容が示されている。
- 複数の単元での学習内容を関連付けた「学びをリンク！」が示されている。
- 「A物質・エネルギー」のいくつかの単元の終わりに「作ってみよう」が設定されている。
- 「発展」が設定されており、中学校理科の内容には「中学校で学ぶこと」と記載されている。

5 全体的な表記・表現について

- 全ての学年が、AB判、合冊（学年1冊）で構成されており、第6学年には間伐材を利用した紙を使用したページがある。
- 生物、地学教材は、季節に合わせて配列されている。
- 全ての学年に巻末資料が掲載されている。
- 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、QRコードが巻頭に示され、該当する箇所にはマークが示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	3年			4年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	7	83	46 %	4	60	29 %
B 生命・地球	5	74	41 %	6	122	60 %
共 通	—	23	13 %	—	22	11 %
合 計	12	180	100 %	10	204	100 %

領域等	5年			6年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	3	48	25 %	4	92	40 %
B 生命・地球	6	118	61 %	6	112	49 %
共 通	—	26	14 %	—	24	11 %
合 計	9	192	100 %	10	228	100 %

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成

			3年	4年	5年	6年
観察・実験の数	A 物質・エネルギー	観察	—	—	—	—
		実験	17	13	8	16
	B 生命・地球	観察	18	18	5	5
		実験	—	3	7	8
ものづくりの数	A 物質・エネルギー	8	3	1	1	
	B 生命・地球	2	3	—	—	
発展的な内容を示すマークの数	A 物質・エネルギー	6	3	5	—	
	B 生命・地球	—	5	5	9	

※ものづくりの数は、学習したことを生かして行うものづくりの数。

(3) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

		3年	4年	5年	6年
QRコード	A 物質・エネルギー	4	—	5	3
	B 生命・地球	4	3	3	2
	共 通	4	4	6	7

※教科書内にQRコードを表示。

(4) プログラミング教育に関わる頁数

	3年	4年	5年	6年
プログラミングに関する学習活動が扱われている頁数	—	—	—	6

2 主体的に追究する活動に関すること

- 単元の導入は自然の事物・現象が見開きで示されている。
- 「問題を見つける」ために「問題をみつけよう」が設定されており、続けて、学習内容に応じて「活動」や「話し合い」が示されている。
- 問題解決の過程が統一された言葉とそれに対応するマークで示されている。
- 単元の終わりに「まとめてみよう」という問題が示され、「もっと調べたいこと」等を尋ねる「できるようになった」が設定されている。
- 単元の導入では「調べていこう」として問題解決の過程が3か所示されており、単元の終わりの「できるようになった」と対応している。

3 観察・実験に関わる内容について

- 観察や実験の手順が、文章だけでなく図や写真で示されており、用意するものにはチェックする欄が設けられている。
- 実験器具の使い方や話合いの仕方、ノートの書き方等が、巻末に示されている。
- 観察、実験の際の安全に関して注意を促す場面には、赤いマークの「注意」が示されている。
- 第6学年の「電気と私たちの生活」では、プログラミングの活動が示されており、デジタルコンテンツを利用した学習につながるQRコードも示されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 第4学年以上には、理科の既習内容を取り上げた「〇年生で学んだね」「今までの学習を思い出してみよう」が示されている。
- 学習内容と関連する自然事象や職業、中学校での学習内容が「しりょう」に示されている。
- 算数科や社会科等との関連が示されている。
- 「A物質・エネルギー」のいくつかの単元の終わりに「やってみよう」や「作ってみよう」が掲載され、ものづくりが示されている。
- 「学びを生かして深める活動」として「活用」が設定されている。
- 「児童の興味・関心に応じて利用」する「はってん」が示されている。

5 全体的な表記・表現について

- 全ての学年が、AB判、合冊(学年1冊)で構成されている。
- 生物、地学教材は、季節に合わせて配列されている。
- 扱う植物の栽培の目安が巻頭に一覧で示されている。
- 全ての学年において、巻頭に「〇年生で学ぶこと」、巻末に「〇年生で学んだこと」が領域ごとに示されている。
- 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、該当する箇所にQRコードが示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	3年			4年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	6	88	44 %	5	80	33 %
B 生命・地球	5	92	46 %	6	132	55 %
共 通	—	20	10 %	—	28	12 %
合 計	11	200	100 %	11	240	100 %

領域等	5年			6年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	3	68	30 %	4	84	36 %
B 生命・地球	6	134	59 %	5	126	53 %
共 通	—	26	11 %	—	26	11 %
合 計	9	228	100 %	9	236	100 %

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成

		3年	4年	5年	6年	
観察・実験の数	A 物質・エネルギー	観察	—	—	—	
		実験	16	14	8	12
	B 生命・地球	観察	14	14	3	3
		実験	0	4	7	8
ものづくりの数	A 物質・エネルギー	5	4	6	1	
	B 生命・地球	2	4	—	—	
発展的な内容を示すマークの数	A 物質・エネルギー	3	2	7	3	
	B 生命・地球	—	7	4	6	

※ものづくりの数は、学習したことを生かして行うものづくりの数。

(3) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

		3年	4年	5年	6年
デジタルコンテンツにつながるマーク	A 物質・エネルギー	9	8	13	13
	B 生命・地球	16	31	24	31
	共 通	4	4	4	4

※巻末に一覧表とともにQRコードを表示。教科書内はマーク有。

(4) プログラミング教育に関わる頁数

	3年	4年	5年	6年
プログラミングに関する学習活動が扱われている頁数	—	—	—	2

2 主体的に追究する活動に関すること

- 単元の導入は自然の事物・現象が見開きで示され、続いて「新しい疑問を発見」する「見つけよう」が設定されている。
- 問題解決の過程が統一された言葉で示され、これに関わる内容が子供のキャラクターの吹き出しで示されている。
- 単元の導入のページに登場したキャラクターが単元の終わりのページまで登場し、問題解決に関わる疑問や気づきが吹き出しで示されている。
- 単元末に「確かめ」という問題が示されている。
- 「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」に問題解決に関わる言葉が記載されており、キャラクターの吹き出しで示されている。
- 学習したことを使って考え説明する「学びを広げよう」が設定されている。

3 観察・実験に関わる内容について

- 観察や実験の手順が、文章だけでなく図や写真で示されており、用意するものにはチェックする欄が設けられている。
- 実験器具の使い方は、その器具を扱う最初の実験に示されており、別の実験方法として扱う器具の操作方法については巻末に掲載されている。
- 観察、実験の際の安全に関して注意を促す場面には、赤いマークの「注意」「危険」が示されている。
- 観察、実験のページと結果のページが見開きにならないように構成されている。
- 第6学年の「電気の利用」では、プログラミングの活動が示されており、デジタルコンテンツを利用した学習につながるQRコードも示されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 巻頭に、前学年で学習した内容が「〇年で学んだこと」として示され、他教科を含む既習の内容や生活経験が「思い出そう」として示されている。
- 「広がる科学の世界」において中学校での学習内容が示され、第6学年では「ステップアップ」にも示されている。
- 科学読み物の「科学のまど」が掲載されている。
- 「A物質・エネルギー」のいくつかの単元の終わりに「チャレンジ」が掲載され、「ものづくり」が取り入れられている。
- 「もっと学習したいときに、ちょうせん」する「はってん」が示されており、中学校理科での学習内容には「中学〇年」と記載されている。

5 全体的な表記・表現について

- 全ての学年が、A4変形判、合冊（学年1冊）で構成されている。
- 生物、地学教材は、季節に合わせて配列されている。
- 全ての学年に巻末資料が掲載されている。
- 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、QRコードが巻頭に示され、該当するページには「まなびリンク」のマークが示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	3年			4年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	6	78	48 %	5	70	38 %
B 生命・地球	8	72	45 %	11	105	56 %
共 通	—	12	7 %	—	11	6 %
合 計	14	162	100 %	16	186	100 %

領域等	5年			6年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	3	49	32 %	4	72	40 %
B 生命・地球	8	92	61 %	6	99	55 %
共 通	—	11	7 %	—	9	5 %
合 計	11	152	100 %	10	180	100 %

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成

			3年	4年	5年	6年
観察・実験の数	A 物質・エネルギー	観察	—	—	—	—
		実験	27(1)	31(1)	14(1)	32(2)
	B 生命・地球	観察	19	25	14	19(3)
		実験	3(3)	5	11(2)	13(2)
ものづくりの数	A 物質・エネルギー	10	4	7	3	
	B 生命・地球	—	1	—	—	
発展的な内容を示すマークの数	A 物質・エネルギー	4	3	6	1	
	B 生命・地球	3	6	—	10	

※ものづくりの数は、学習したことを生かして行うものづくりの数。

※観察・実験の()内の数字は「やってみよう」「しらべてみよう」の中の「実験」「観察」

(3) デジタルコンテンツを使って学習できる箇所

		3年	4年	5年	6年
デジタルコンテンツにつながるマーク	A 物質・エネルギー	—	—	—	1
	B 生命・地球	3	4	3	3
	共 通	1	—	—	—

※巻頭にQRコードを表示。教科書内はマーク有。

(4) プログラミング教育に関わる頁数

	3年	4年	5年	6年
プログラミングに関する学習活動が扱われている頁数	—	—	—	4

2 主体的に追究する活動に関すること

- 単元の導入は自然の事物・現象が見開きで示され、「しらべること」が記載されている。
- 問題解決の過程が統一された言葉で示されている。
- 単元の終わりには「まとめよう」が設定され、単元の要点のまとめが示されている。
- 「問題」で、キャラクターの吹き出しに、既習事項や関連する日常の場面が示されている。
- 「理解を深める観察・実験」として、「やってみよう」が示されている。
- 「考えてみよう」に、キャラクターによる対話の例が示されている。

3 観察・実験に関わる内容について

- 観察や実験の手順が、文章だけでなく図や写真で示されている。
- 実験器具の使い方は、その器具を扱う最初の実験に示されている。
- 観察、実験の際の安全に関して注意を促す場面には、赤いマークの「注意」が、「観察・実験などで気をつけること」には、青いマークの「注意」が示されている。
- 第6学年の「電気の利用」では、プログラミングの活動が示されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 全ての学年において、単元の始めに、「思い出そう」が設定され、前学年までの学習内容等が示されている単元がある。
- 問題解決の過程に示した観察や実験の方法と異なる方法が「やってみよう」に示されている。
- 全ての学年において、単元の内容に関連した自然の事物・現象・科学史等が「しりょう」に示されており、一部は発展的な内容となっている。
- 「A物質・エネルギー」のいくつかの単元の終わりに「ものづくり」が取り入れられている。
- 第6学年の「電気の利用」の単元末の「コンデンサーで動くモーターカー」づくりでは、第3学年の「風力で動く車」、第4学年の「モーターで動く車」と関連した材料が用いられ、学習のつながりが示されている。
- 「はってん」の学習が示されており、「小学校・中学校で学習する内容」は、学校、学年が記載されている。

5 全体的な表記・表現について

- 全ての学年が、AB判、合冊(学年1冊)で構成されている。
- 昆虫の拡大、実験の様子等のビジュアル資料がイラストで示されているものがある。
- 生物、地学教材は、季節に合わせて配列されている。
- 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、QRコードが巻頭に示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

領域等	3年			4年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	6	76	42 %	5	68	34 %
B 生命・地球	5	80	45 %	5	106	52 %
共 通	—	23	13 %	—	29	14 %
合 計	11	179	100 %	10	203	100 %

領域等	5年			6年		
	単元数	頁数	割合	単元数	頁数	割合
A 物質・エネルギー	3	54	28 %	4	72	33 %
B 生命・地球	6	106	54 %	6	112	51 %
共 通	—	35	18 %	—	35	16 %
合 計	9	195	100 %	10	219	100 %

※巻末資料や付録に掲載されているものは含まない。

(2) 観察・実験、ものづくり、発展的な内容等の構成

		3年	4年	5年	6年
観察・実験の数	A 物質・エネルギー	観察	—	—	—
		実験	14	15	11
	B 生命・地球	観察	15	16	5
		実験	—	3	7
ものづくりの数	A 物質・エネルギー	6	2	6	
	B 生命・地球	—	—	—	
発展的な内容を示すマークの数	A 物質・エネルギー	3	1	2	
	B 生命・地球	1	5	4	

※ものづくりの数は、学習したことを生かして行うものづくりの数。

(3) QRコードにより学習できる箇所

		3年	4年	5年	6年
QRコード	A 物質・エネルギー	16	11	12	
	B 生命・地球	15	23	31	
	共 通	3	7	6	

※教科書内にQRコードを表示。

(4) プログラミング教育に関わる頁数

	3年	4年	5年	6年
プログラミングに関する学習活動が扱われている頁数	—	—	—	6

2 主体的に追究する活動に関すること

- 単元の導入は自然の事物・現象が見開きで示され、「学習のめあて」「思い出してみよう」「はじめに考えてみよう」が設定されており、続いて「問題をつかもう」が設定されている。
- 問題解決の過程が統一された言葉で示されている。
- 単元末に「たしかめよう」「活用しよう」「もう一度考えてみよう」が設定されている。
- 単元末に「ふり返ろうまとめノート」が示され、「新しく学習した言葉」が記載されている。
- 全ての学年において、巻末に「〇年の理科をふり返ろう」が掲載され、「特ちょうのある見方」が示されている。

3 観察・実験に関わる内容について

- 観察や実験の手順が、文章だけでなく図や写真で示されており、用意するものにはチェックする欄が設けられている。
- 実験器具の使い方や話合いの仕方、ノートの書き方等が、巻末に示されている。
- 観察、実験の際の安全に関して注意を促す場面には、赤いマークが示されている。さらに「保護眼鏡」「かん気」「はい液」「けが」「やけど」「強い光」というマークも示されている。
- 観察、実験のページと結果のページが見開きにならないように構成されている。
- 第6学年「発電と電気の利用」では、プログラミングの活動が示されており、デジタルコンテンツを利用した学習につながるQRコードと、アンプラグドの学習が行えるシールとシートが示されている。

4 学習の系統性と発展的な内容について

- 単元末に学習したことを日常の事象と関連付ける「つなげよう」が示され、さらに、複数の単元で学習した内容を関連付けた「これまでの学習をつなげよう」が示されている。
- 関連する自然事象、他教科、中学校理科での学習内容等が「理科の広場」に示されている。
- 巻末に「算数のまど」が示されている。
- 巻末に「ものづくり広場」が設けられている。第6学年には、「B 生命・地球」に関して「肺のしくみ」、「でんぷんの取り出し」が示されている。
- 「もっと調べたいときにチャレンジ」する「発展」が示されており、中学校理科での学習内容には「中学校」と記載されている。

5 全体的な表記・表現について

- 全ての学年が、AB判、合冊(学年1冊)で構成されている。
- 生物、地学教材は、季節に合わせて配列されている。
- 第3, 5, 6学年において、取り外して使うことができる巻末資料が設定されている。
- 複数の単元にデジタルコンテンツが用意されており、該当する箇所にQRコードが示されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。

令和2年度使用
小学校用教科用図書
採択参考資料

生 活

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	生活 101・102
4 大日本	生活 103・104
11 学図	生活 105・106
17 教出	生活 107・108
26 信教	生活 109・110
38 光村	生活 111・112
61 啓林館	生活 113・114
116 日文	生活 115・116

生 活

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 4 大日本 11 学図 17 教出 26 信教 38 光村
61 啓林館 116 日文

2 調査研究の観点

- (1) 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 具体的な活動や体験を行うことができるよう配慮されており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) [学校、家庭及び地域の生活に関する内容] [身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容] [自分自身の生活や成長に関する内容] の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 挿絵や写真、表記や表現等が適切であり、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1) (4)
 - ① 単元のページ構成
 - ② 表現活動の比較
- (2) 学習指導要領に関すること（気付きの質を高める取組等）について…………… 観点(1)
- (3) 児童の実態や家庭・地域の実情に関すること…………… 観点(2)
- (4) 内容の構成・配列，他教科等との関連について…………… 観点(1) (3)
- (5) 全体的な表記・表現等について…………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

(1) 単元のページ構成

教科用図書名：「上巻 ときどきわくわく」(総頁数132)

	単元名	頁数	割合
1	がっこうだいすき	13	9%
2	きれいにさいてね	13	9%
3	なつがやってきた	17	15%
4	いきものとなかよし	9	7%
5	たのしいあきいっぱい	17	8%
6	じぶんでできるよ	9	7%
7	ふゆをたのしもう	13	9%
8	もうすぐ2ねんせい	10	13%
	その他	31	23%

教科用図書名：「下巻 あしたへジャンプ」(総頁数130)

	単元名	頁数	割合
1	春だ今日から2年生	8	6%
2	ぐんぐんそだてわたしの野さい	14	11%
3	ときどきわくわくまちたんけん	10	8%
4	生きものなかよし大作せん	14	11%
5	うごくうごくわたしのおもちゃ	12	9%
6	みんなでつかうまちのしせつ	12	9%
7	もっとなかよしまちたんけん	10	8%
8	つながる広がるわたしの生活	14	11%
9	あしたへジャンプ	12	9%
	その他	24	18%

※その他は、目次、「かつどう べんりてちょう」等の資料の頁数

(2) 表現活動の比較 (箇所数)

	カード	作文	作品	書き込み	伝え合い 発表	手紙 招待状	新聞・地図 ポスター	交流会
上巻	36	0	22	0	6	1	0	3
下巻	21	0	26	0	7	2	10	2

2 学習指導要領に関すること（気づきの質を高める取組等）について

- 児童が学習の見通しを持てるよう、「学びのプロセス」がイラストで示されている。
- 上巻では、具体物を使った振り返り活動の例が掲載され、伝え合いや交流ができる場の工夫の例が示されている。
- 巻末資料の「かつどう べんりてちょう」の下巻では、見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫するなどの思考を促す学び方が掲載されている。
- 教師の発問例や掲示物、板書例、また情報機器の活用例等が掲載されている。
- 育成を目指す資質・能力に即して整理された9つの内容に該当する単元が2年間で網羅するよう構成されている。

3 児童の実態や家庭・地域の実情に関すること

- 裏表紙に、「保護者の皆様へ」が掲載されている。
- 昔から伝わる伝承遊びや、草花遊び、伝統行事等が写真やイラストで掲載されている。
- 巻末資料の「かつどう べんりてちょう」には、自然災害、交通災害、人的災害の3つの観点から、安全に関する資料が掲載されている。

4 内容の構成・配列、他教科等との関連について

- 上巻の巻頭に、スタートカリキュラムへ対応した単元が設定されており、幼児期の学びと学校生活や教科学習とのつながりが示されている。
- 活動を通じて、他教科との関連を図る構成になっている。
- 学年末の単元で、次の学年へのつながりが掲載されている。
- 時系列で単元が配列・構成されている。
- 目次に、デジタルコンテンツにつながるQRコードが掲載されており、上巻には14か所、下巻では8か所の対象マークが示されている。

5 全体的な表記・表現等について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 「まなびい」と「ずかんちゃん」というキャラクターは、活動のヒントや留意点を与えるよう設定されている。

1 概括的な調査研究

(1) 単元のページ構成

教科用図書名：「上巻 なかよし」(総頁数138)

	単元名	頁数	割合
1	みんななかよし	28	20%
2	なつとなかよし	14	10%
3	あきとなかよし	30	22%
4	ふゆとなかよし	30	22%
	その他	36	26%

教科用図書名：「下巻 はっけん」(総頁数138)

	単元名	頁数	割合
1	春はっけん	26	19%
2	生きものはっけん	22	16%
3	わたしの町はっけん	22	16%
4	つくる楽しさはっけん	10	7%
5	自分のはっけん	24	17%
	その他	34	25%

※その他は、目次、「がくしゅう どうぐばこ」等の資料の頁数

(2) 表現活動の比較 (箇所数)

	カード	作文	作品	書き込み	伝え合い 発表	手紙 招待状	新聞・地図 ポスター	交流会
上巻	32	1	28	0	1	9	0	3
下巻	36	4	27	0	4	8	8	1